

令和2 年度厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)

独居認知症高齢者等が安全・安心な暮らしを送れる 環境づくりのための研究に関する分析の委託

2021年7月

大和ライフネクスト株式会社

目 次

1. 研究目的 · · · · ·	2
2. 研究方法 · · · · ·	2
3. 住居形態別の高齢者分布の推計 · · · · ·	3
3. 1 国勢調査データによる人口分布 · · · · ·	3
3. 2 ハイブリッドデータ評価法による高齢者人口等の推計 · · · · ·	3
3. 3 ハイブリッドデータ評価法による推計結果 · · · · ·	6
3. 4 地域包括単位での推計とまとめ · · · · ·	9
3. 5 住居形態別の人ロおよび高齢者分布のまとめ · · · · ·	11
4. 高齢者を取り巻く各種リスクの把握 · · · · ·	12
4. 1 洪水による浸水想定 · · · · ·	12
4. 2 地震による建物倒壊危険度 · · · · ·	14
4. 3 火災危険度 · · · · ·	16
4. 4 避難所への近接性に関する危険度 · · · · ·	18
4. 5 避難場所への近接性に関する危険度 · · · · ·	20
4. 6 医療機関への近接性に関する危険度 · · · · ·	22
4. 7 認知症サポート医への近接性に関する危険度 · · · · ·	24
4. 8 地域包括単位での高齢者を取り巻くリスクのまとめ · · · · ·	26
5. 「平成 27 年度 足立区介護予防チェックリスト」調査データを用いた住居形態との関係分析 · · · · ·	28
5. 1 足立区 2015 年調査データの集計・分析について · · · · ·	28
5. 2 町丁目単位の集計結果（割合） · · · · ·	30
5. 3 住居形態の把握 · · · · ·	32
5. 4 住居形態と設問項目の関係についての分析 · · · · ·	34
5. 5 住居形態と設問項目の関係についてのまとめ · · · · ·	37
5. 6 要支援・要介護認定と住居形態等の関係についての分析 · · · · ·	38
5. 7 地域包括担当地域の特徴および設問項目との関係 · · · · ·	41
5. 8 足立区 2015 年調査データを用いた住居形態との関係分析のまとめ ·	44

1. 研究目的

地域包括ケアの充実のためには、高齢者を取り巻く地域特性を把握し、多様な主体がそれらの情報を共有し連携できる体制づくりが必要である。中でも住居形態は地域特性としての重要な要素であるが、例えば分譲マンションは、外部からアクセスしづらく、社会福祉の手が届きにくい共同住宅とも言われる。

そこで本調査研究では、東京都足立区を対象に、戸建て住宅、分譲マンション等の住居形態別の高齢者分布、独居などの推計を行うと共に、当該地域の災害リスクや医療体制、日常生活上のアクセシビリティなどの状況分析を加える。

また、2015年に足立区で実施されたアンケート調査データ^{*}による分析も加味し、戸建て住宅や分譲マンション等の特性・課題を検討する。

本分析により、高齢者を取り巻く都市の空間的特性を把握し、高齢者の特性や課題が明らかになることが期待され、エリアにおける行政等の施策に活用できる可能性がある。

※ 「平成 27 年度 足立区介護予防チェックリスト」調査データ

介護予防の推進および認知症高齢者対策に資する健康調査を実施し、身体・精神・社会的機能を含む総合的な状態把握、認知症に対する区民の意識を調査することにより、足立区の実情に即した介護予防および認知症対策を推進するもの。足立区内に在住で、平成 27 年 4 月 1 日現在 65 歳以上の区民のうち、要介護認定を受けていない全員 134,392 名を調査対象とした悉皆調査である。

(以下、「足立区 2015 年調査」とする。)

2. 研究方法

足立区における高齢者分布を詳細に把握するため、国勢調査データに民間会社のデータを加えたハイブリッドデータ評価法による推計を行う。また主に災害リスクの観点から高齢者を取り巻く地域特性を把握し、高齢者分布との関係から分析を行う。さらに足立区 2015 年調査および介護認定データの結果を加えて、住居形態との関係を把握する。

具体的には次の 3 項目について報告を行う

1. 住居形態別の高齢者分布の推計
2. 高齢者を取り巻く各種リスクの把握
3. 足立区 2015 年調査データを用いた住居形態との関係分析

3. 住居形態別の高齢者分布の推計

3. 1 国勢調査データによる人口分布

国勢調査では市町村など行政区域別集計よりもさらに詳細な集計単位として、町丁目・字等の小地域集計、矩形のメッシュ単位集計などがあり、一般世帯数や世帯人員、年齢別人口、65歳以上世帯員のいる一般世帯数、住宅の建て方別世帯数などがデータとして格納されている。次は65歳以上人口の分布を示したものである。

e-Stat 「政府統計の総合窓口」

<https://www.e-stat.go.jp/gis/statmap-search?page=1&type=1&toukeiCode=00200521>

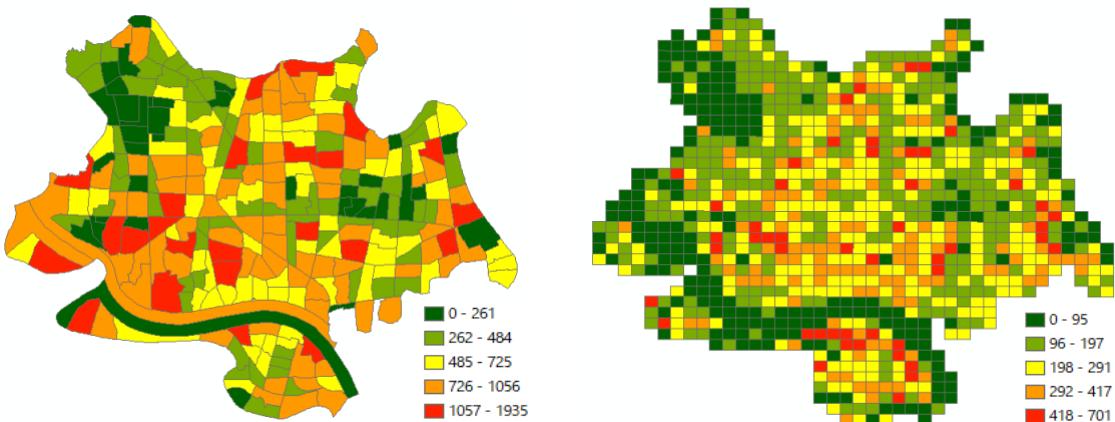


図 3.1 2015 年国勢調査 65 歳以上人口（左：町丁目単位　右：メッシュ単位）

分譲マンションの世帯数等を推定するためには、市町村単位であれば「持ち家」かつ「共同住宅」というデータ区分を利用することができるが、町丁目やメッシュ単位など詳細な集計単位ではそれらの区分が示されておらず推計することができない。そこで、次に民間の地図データと分譲マンションの売買データを合わせて活用したハイブリッドデータ評価法を用いることとする。

3. 2 ハイブリッドデータ評価法による高齢者人口等の推計

国勢調査に加えて民間データを併用し、分譲マンションを抽出すると共に、メッシュ単位の世帯数や世帯人員を各建物に分配することにより、詳細に高齢者や高齢単身世帯数を把握する手法（ハイブリッドデータ評価法）を用いる。

（1）使用データ

①国勢調査データ：平成 27 年国勢調査－世界測地系（250m メッシュ）

統計表 1001 その 1 人口等基本集計に関する事項

<https://www.e-stat.go.jp/gis/statmap-search?page=1&type=1&toukeiCode=00200521>

②ゼンリン建物ポイントデータ 2020：住宅の位置（住所・緯度経度）、建物種別、階数、部屋数、面積などを属性としたポイントデータ。建物種別としては、個人住宅、マンション、アパート、団地、寮・社宅、事業所兼住宅、事業所系建物、商業施設系建物等に分かれる。以下、建物ポイントデータと呼ぶ。

③分譲マンションデータ：分譲マンションについて、物件名・住所・階数・築年月・戸数・分譲会社・管理会社・最寄り駅などを集計。

建物ポイントデータおよび分譲マンションデータの事例を次に示す。建物データ上にプロットされた丸印は建物ポイントデータであり、建物の種類を知ることができる。マンションについては分譲と賃貸が区別されていないため、別途、■印の分譲マンションデータを合わせることにより、それらを判別した。

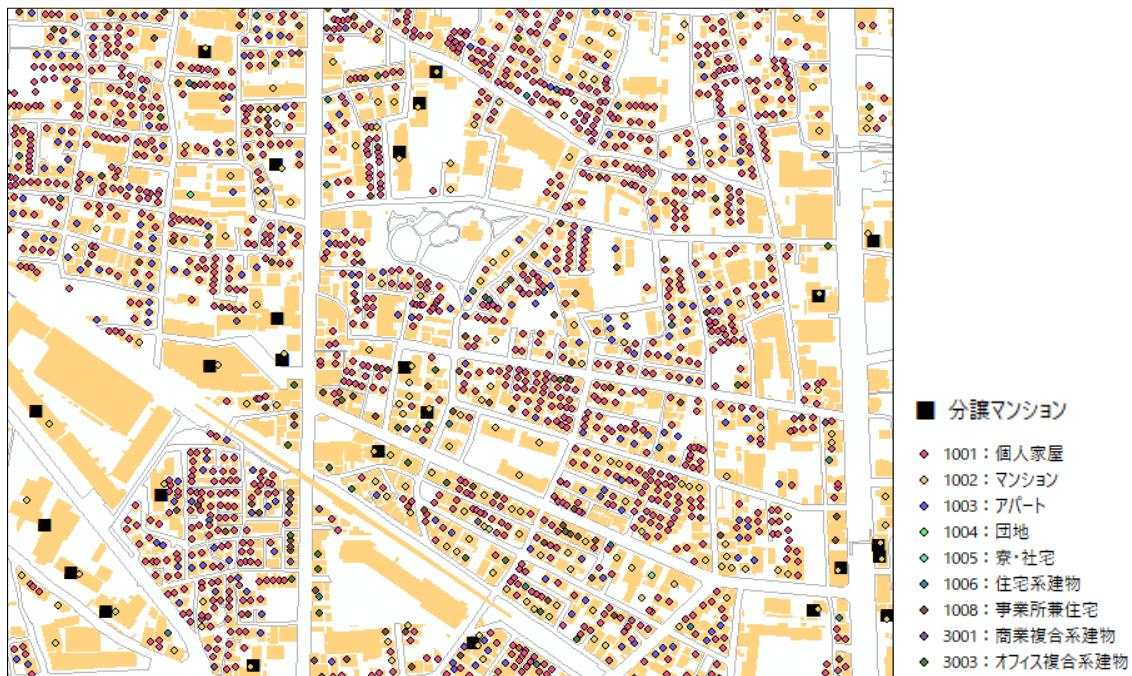


図 3.2 建物ポイントデータおよび分譲マンションデータの例

(2) 人口および高齢者人口等の推計手順

(A) 「一般世帯数」「一般世帯人員」「一般世帯当たり人員」「65歳以上の人口割合」「高齢単身世帯割合」等を算出する単位として、町丁目よりも細かい250mメッシュを使用する。

メッシュの一般世帯数（世帯）	①国勢調査
メッシュの一般世帯人員（人）	②国勢調査
メッシュの一般世帯当たり人員（人／世帯） = ② / ①	③
メッシュの65歳以上の一般世帯人員（高齢者数）（人）	④国勢調査
メッシュの65歳以上の一般世帯人員割合（%） = ④ / ②	⑤
メッシュの65歳以上の単身世帯数（高齢単身世帯）（世帯）	⑥国勢調査
メッシュの65歳以上の単身世帯割合（%） = ⑥ / ①	⑦
メッシュの高齢夫婦のみの一般世帯数（世帯）	⑧国勢調査
メッシュの高齢夫婦のみの一般世帯割合（%） = ⑧ / ①	⑨

(B) 各メッシュに含まれる建物ポイントデータに、前述のメッシュ単位の平均的な数値をかけ合わせ、次式により建物ごとに世帯数、世帯人員、高齢者数、高齢単身世帯数等を割り付けた。

建物ごとの世帯数（世帯） = 住宅ポイントデータの部屋数 × 空き家率* * * * * ⑩

建物ごとの一般世帯人員（人） = ⑩ × ③ × 世帯人口補正率* · · · · · ⑪

建物ごとの 65 歳以上の一般世帯人員（人） =⑪×⑤

建物ごとの高齢単身の一般世帯数（世帯） = ⑩ × ⑦

建物ごとの高齢夫婦のみの一般世帯数（世帯） = ⑩ × ⑨

* 空き家率

足立区の空き家率は、平成30年住宅・土地統計調査より11.138%とした。

* 世帯人口補正率

足立区全体での世帯当たり人口は減少傾向にあり、住民基本台帳によれば2015年12月から2020年12月にかけて、2,060から1,937へ5.971%の減少となっていることから、補正率を95%とする。

表 3.1 足立区世帯当たり人口等の推移

国勢調査	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年 (推定値)
人口総数(人)	617,123	624,807	683,426	670,122	679,193
一般世帯数(世帯)	249,725	263,491	314,360	310,434	331,870
世帯当たり人口(人／世帯)	2.471	2.371	2.174	2.159	2.047
世帯当たり人口増減率(%)	-	-4.047	-8.309	-0.690	-5.188
住民基本台帳	-	-	2010年12月	2015年12月	2020年12月
人口総数(人)	-	-	667,668	678,560	691,245
一般世帯数(世帯)	-	-	319,550	329,341	356,861
世帯当たり人口(人／世帯)	-	-	2.089	2.060	1.937
世帯当たり人口増減率(%)	-	-	-	-1.388	-5.971

国勢調査の2020年の値は本調査研究による推定値である

(C) 分譲マンションデータによって、建物ポイントデータから分譲マンションを抽出し、高齢者数等を把握した。

3. 3 ハイブリッドデータ評価法による推計結果

(1) 足立区居住人口の分布と居住者密度

足立区全域において、点で示された建物ごとに居住者を割り付けた結果を示す。地図上の地域名称は地域包括支援センター（以下、「地域包括」と略す場合がある。）の担当地域名称を用いている※。点データは居住者数に応じて色を変えているが、このままでは全体の傾向を把握することが困難である。

※足立区「地域包括支援センターのご案内」

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/care-s/fukushi-kenko/koresha/hokatsushien.html>

そこでカーネル密度推定により点データを密度（単位面積当たり人口）に変換し分析した。カーネル密度推定では、対象地域を一定の大きさのグリッドに分割し、各グリッドの中心から一定半径の円を描き、その面積と建物ごとの居住者数を集計することにより、人口密度を算出し当該グリッドの居住者密度とする。なお居住者数の集計では中心に近い建物ほど重みづけを大きくする手法を用いた。これを全グリッドで行うことにより全体の居住者密度を算出した（本調査研究ではグリッドの大きさ： $20 \times 20\text{m}$ 、円半径：500mとした）。

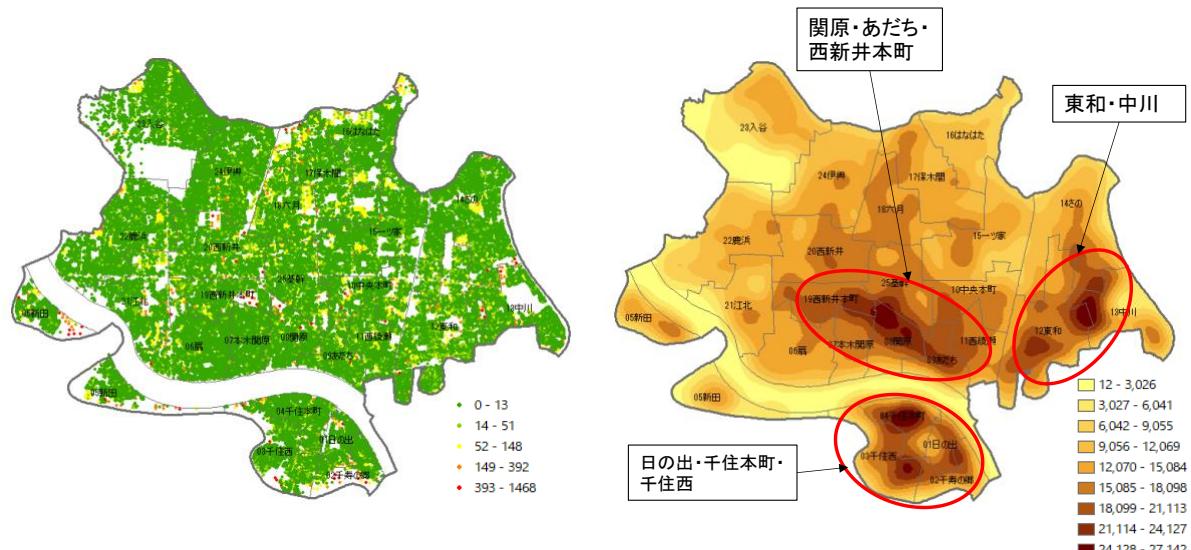


図 3.3 左：建物ごとの居住者数（人） 右：居住者密度（人／km²）

荒川右岸の「日の出」「千住本町」「千寿西」、荒川左岸の「あだち」「関原」「西新井本町」また「東和」「中川」などで特に居住者密度の高い地域が見られた。国勢調査データのみによる人口分布に比べて、より詳細に人口分布状況を把握することが可能となった。

(2) 足立区高齢者（65歳以上）分布と密度

建物ごとに65歳以上高齢者を割り付けた結果を次に示す。

このままでは分布傾向がわからづらいため、同様にカーネル密度推定により高齢者密度を計算した。居住者全体の場合と同様に、「日の出」「千住本町」「あだち」「関原」「西新井本町」などで高齢者密度の高い地域が見られるが、これらに加えて「保木間」「西新井」などでも密度の高い地域が見られた。

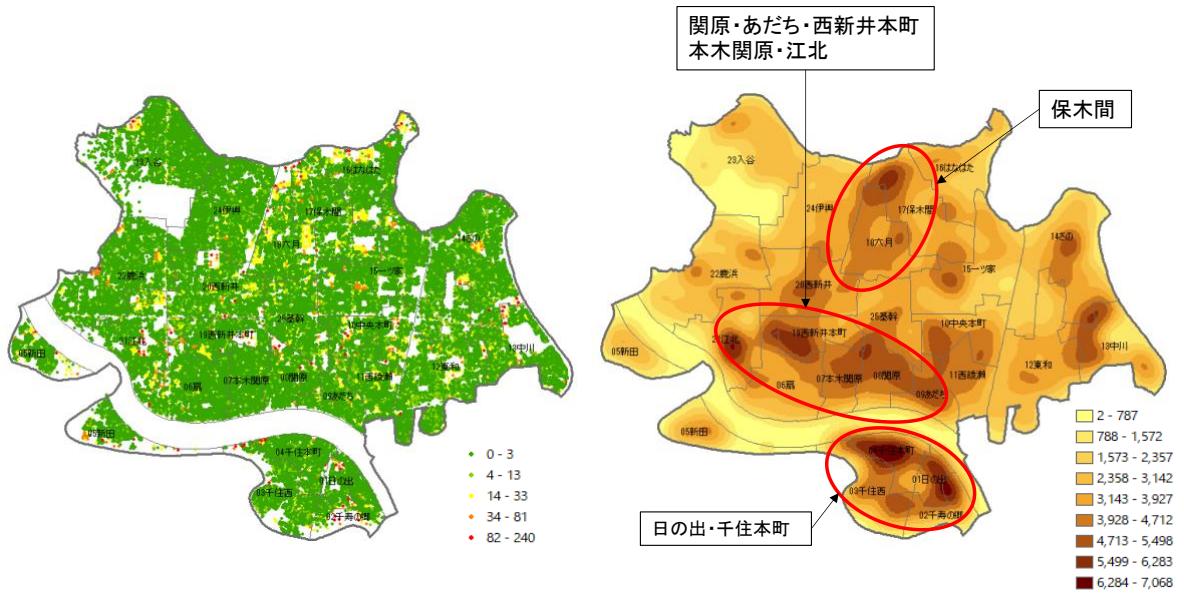


図 3.4 左：建物ごとの高齢者数（人） 右：高齢者密度（人／km²）

(3) 分譲マンション居住の高齢者分布と密度

分譲マンションを対象にすると、次図に示すように建物に割り付けられた高齢者人口の分布でも、ある程度傾向を把握することはできるが、さらにカーネル密度を計算することにより詳細な分布傾向を把握した。

その結果、荒川右岸の「千寿の郷」「千寿本町」、荒川左岸の「関原」「中央本町」さらに「中川」の各地域で、分譲マンションに住む高齢者が集中する地域が見られた。

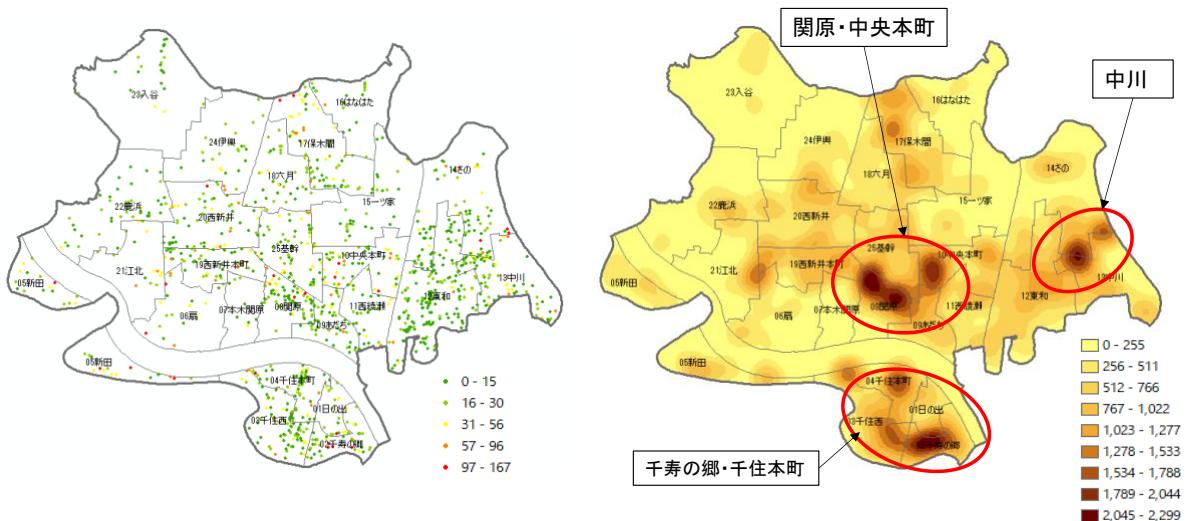


図 3.5 左：分譲マンションごとの高齢者数（人） 右：分譲マンションに住む高齢者密度（人／km²）

(4) その他住居形態別の高齢者密度

これまでと同様の手法で、戸建て住宅、賃貸マンション、アパート、団地など住居形態別に建物に人口を割り付け密度に変換し、高齢者分布を可視化したものを次に示す。

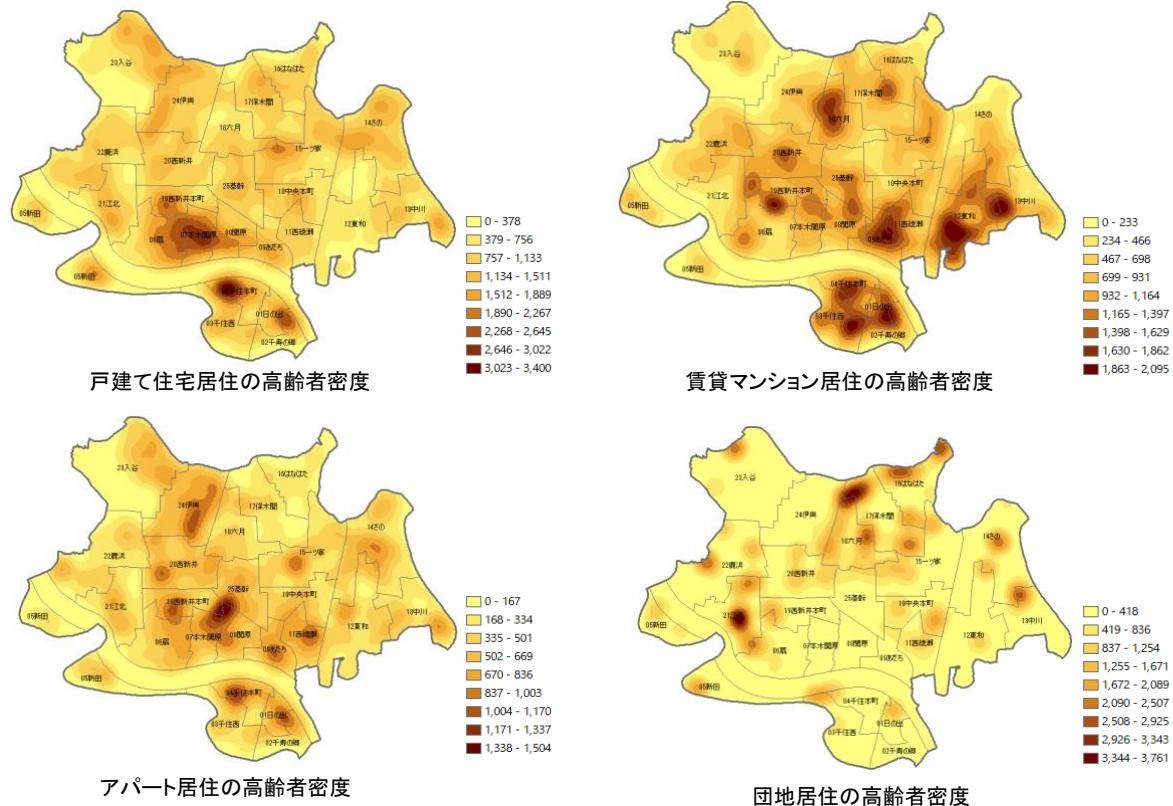


図 3.6 その他住居形態別の高齢者密度（人／km²）

戸建て住宅では、「千寿本町」および「本木関原」とその周囲に高密度地域が集中している。賃貸マンションでは多数の地域で密度の高まりが見られるが、特に「千寿の郷」「千寿西」「千住本町」「あだち」「東和」「中川」「六月」で高密度である。アパート居住の高齢者分布は、「関原」「本木関原」「基幹」の境界点を中心に高密度であり、「伊興」「西綾瀬」「千寿本町」など複数の地点で密度の高まりが見られる。公営アパート、URなどの団地居住では「江北」「保木間」「はなはた」で特に高密度地域が見られる。

3. 4 地域包括単位での推計とまとめ

足立区では、高齢者の健康や介護に関するさまざまな相談を受け付ける窓口として、地域包括支援センターが設けられ、その担当地域は 25 に区分される。

表 3.2 地域包括支援センター 担当地域一覧

名称	主な担当地域	名称	主な担当地域
1. 日の出	日ノ出町. 千住旭町. 千住東 2 丁目	14. さの	加平. 北加平町. 神明. 神明南. 辰沼. 6 木. 佐野. 大谷田 2 丁目~5 丁目
2. 千住の郷	柳原. 千住関屋町. 千住曙町. 千住東一丁目	15. 一ツ家	平野. 一ツ家. 保塚町. 6 町. 南花畠 1 丁目~4 丁目
3. 千住西	千住桜木. 千住緑町. 千住龍田町. 千住中居町. 千住宮元町. 千住仲町. 千住河原町. 千住橋戸町	16. はなはた	花畠. 南花畠 5 丁目
4. 千住本町	千住. 千住元町. 千住大川町. 千住寿町. 千住柳町	17. 保木間	西保木間. 保木間. 東保木間
5. 新田	新田. 宮城. 小台	18. 六月	六月. 東六月町. 竹の塚
6. 扇	扇. 興野. 本木東町. 本木西町. 本木南町. 本木北町	19. 西新井本町	西新井本町. 西新井栄町
7. 本木関原	関原. 本木 1 丁目~2 丁目	20. 西新井	西新井. 栗原
8. 関原	梅田 2 丁目~八丁目	21. 江北	江北. 堀之内
9. あだち	足立. 中央本町 2 丁目. 梅田 1 丁目	22. 鹿浜	鹿浜. 加賀. 皿沼. 谷在家. 椿
10. 中央本町	中央本町 3 丁目~5 丁目. 青井 1 丁目と 3 丁目~6 丁目. 西加平	23. 入谷	入谷. 舎人. 古千谷. 古千谷本町
11. 西綾瀬	西綾瀬. 弘道. 青井 2 丁目	24. 伊興	伊興. 東伊興. 伊興本町. 西伊興. 西竹の塚
12. 東和	綾瀬. 東綾瀬. 谷中. 東和 1 丁目と 3 丁目	25. 基幹	梅島. 中央本町 1 丁目. 島根
13. 中川	東和 2 丁目と 4 丁目と 5 丁目. 中川. 大谷田 1 丁目		

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/care-s/fukushi-kenko/koresha/hokatsushien.html>



図 3.7 地域包括支援センター担当地域

前述のハイブリッドデータ評価法により得られた人口等を、地域包括単位で集計しその傾向を見た。次表は足立区の全住宅を対象として、居住者人口、高齢者人口等を集計したものである。

表 3.3 地域包括単位での人口および高齢者人口等集計（全住宅対象）

地域包括名称	世帯数 (世帯)	居住人口 (人)	65歳以上人口 (人)	75歳以上人口 (人)	高齢単身世帯 (世帯)	高齢夫婦世帯 (世帯)	65歳以上人口 (%)	75歳以上人口 (%)	高齢単身世帯 (%)	高齢夫婦世帯 (%)
01: 日の出	6,367	11,205	3,177	1,581	989	559	28.4	14.1	15.5	8.8
02: 千寿の郷	7,278	14,734	3,451	1,540	900	617	23.4	10.5	12.4	8.5
03: 千住西	15,178	28,806	6,501	3,088	1,772	1,063	22.6	10.7	11.7	7.0
04: 千住本町	12,178	22,296	5,962	2,972	1,746	943	26.7	13.3	14.3	7.7
05: 新田	11,738	25,807	5,581	2,724	1,437	978	21.6	10.6	12.2	8.3
06: 扇	12,642	27,824	7,408	3,782	1,690	1,262	26.6	13.6	13.4	10.0
07: 本木関原	7,276	15,417	4,372	2,221	1,035	673	28.4	14.4	14.2	9.2
08: 関原	11,322	23,242	5,361	2,528	1,375	913	23.1	10.9	12.1	8.1
09: あだち	10,092	18,918	4,529	2,128	1,287	768	23.9	11.2	12.8	7.6
10: 中央本町	11,444	24,193	6,129	2,846	1,424	1,206	25.3	11.8	12.4	10.5
11: 西綾瀬	9,989	18,417	4,374	2,197	1,320	781	23.7	11.9	13.2	7.8
12: 東和	29,668	56,149	9,910	4,376	2,616	1,715	17.6	7.8	8.8	5.8
13: 中川	14,688	29,256	7,138	3,292	1,956	1,232	24.4	11.3	13.3	8.4
14: さの	21,902	46,571	11,151	4,705	2,480	2,095	23.9	10.1	11.3	9.6
15: 一ツ家	14,987	31,926	8,112	3,811	1,809	1,542	25.4	11.9	12.1	10.3
16: はなはた	9,924	20,714	6,415	3,022	1,700	1,236	31.0	14.6	17.1	12.5
17: 保木間	14,515	31,430	9,088	4,461	2,513	1,525	28.9	14.2	17.3	10.5
18: 六月	14,714	28,685	7,779	3,938	2,217	1,480	27.1	13.7	15.1	10.1
19: 西新井本町	12,053	24,239	5,738	2,834	1,623	998	23.7	11.7	13.5	8.3
20: 西新井	16,215	33,446	8,377	4,206	2,074	1,415	25.0	12.6	12.8	8.7
21: 江北	10,167	20,586	6,660	3,405	1,882	1,188	32.4	16.5	18.5	11.7
22: 鹿浜	15,080	33,426	8,344	3,860	1,862	1,549	25.0	11.5	12.3	10.3
23: 入谷	13,745	31,961	7,700	3,351	1,319	1,369	24.1	10.5	9.6	10.0
24: 伊興	15,252	32,983	8,034	3,775	1,869	1,453	24.4	11.4	12.3	9.5
25: 基幹	13,456	26,962	5,848	2,863	1,562	962	21.7	10.6	11.6	7.1
計	331,870	679,193	167,139	79,506	42,457	29,522	24.6	11.7	12.8	8.9

65歳以上人口が25%以上
高齢単身世帯が15%以上

全住宅を対象とした場合、65歳以上人口が30%を越えているのは、「江北」「はなはた」の2つであり、25%を越えているのは、「日の出」「千住本町」「扇」「本木関原」「中央本町」「一ツ家」「保木間」「六月」「西新井」「鹿浜」の10となる。これらの地域では、高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の割合も高い傾向があり、「日の出」「はなはた」「保木間」「六月」「江北」では単身高齢世帯が15%を超えており、逆に高齢者割合が最も低いは「東和」の17.6%であり、高齢単身世帯割合も8.8%と最も低い。

次表は分譲マンションを対象として居住者人口、高齢者人口等を集計したものである。

表 3.4 地域包括単位での人口および高齢者人口等集計（分譲マンション）

地域包括名称	全住宅居住者		分譲マンション居住者						分譲マンション居住者の全住宅居住者に対する割合					
	世帯数	居住人口	世帯数	居住人口	65歳以上人口	75歳以上人口	高齢単身世帯	高齢夫婦世帯	世帯数	居住人口	65歳以上人口	75歳以上人口	高齢単身世帯	高齢夫婦世帯
			(世帯)	(人)	(世帯)	(人)	(人)	(世帯)			(%)	(%)	(%)	(%)
01:日の出	6,367	11,205	1,035	1,973	495	225	145	86	16,3	17,6	4,4	2,0	2,3	1,4
02:千寿の郷	7,278	14,734	2,804	6,317	1,184	474	246	244	38,5	42,9	8,0	3,2	3,4	3,4
03:千住西	15,178	28,806	3,917	7,849	1,427	651	363	238	25,8	27,2	5,0	2,3	2,4	1,6
04:千住本町	12,178	22,296	2,634	4,838	1,190	592	320	191	21,6	21,7	5,3	2,7	2,6	1,6
05:新田	11,738	25,807	3,363	8,372	1,192	474	231	216	28,7	32,4	4,6	1,8	2,0	1,8
06:扇	12,642	27,824	1,339	2,940	699	314	150	137	10,6	10,6	2,5	1,1	1,2	1,1
07:木本関原	7,276	15,417	242	519	139	63	29	23	3,3	3,4	0,9	0,4	0,4	0,3
08:関原	11,322	23,242	3,921	8,247	1,633	725	422	298	34,6	35,5	7,0	3,1	3,7	2,6
09:あだち	10,092	18,918	1,975	3,799	802	367	232	138	19,6	20,1	4,2	1,9	2,3	1,4
10:中央本町	11,444	24,193	3,151	6,888	1,593	683	341	319	27,5	28,5	6,6	2,8	3,0	2,8
11:西綾瀬	9,989	18,417	1,167	2,135	505	253	152	89	11,7	11,6	2,7	1,4	1,5	0,9
12:東和	29,668	56,149	6,307	12,399	2,074	905	508	346	21,3	22,1	3,7	1,6	1,7	1,2
13:中川	14,688	29,256	3,280	6,677	1,449	635	383	256	22,3	22,8	5,0	2,2	2,6	1,7
14:さの	21,902	46,571	3,992	8,209	1,848	720	465	347	18,2	17,6	4,0	1,5	2,1	1,6
15:一ツ家	14,987	31,926	1,079	2,441	464	199	85	79	7,2	7,6	1,5	0,6	0,6	0,5
16:はなはた	9,924	20,714	560	1,144	333	158	94	58	5,6	5,5	1,6	0,8	0,9	0,6
17:保木間	14,515	31,430	3,132	7,009	1,808	873	415	286	21,6	22,3	5,8	2,8	2,9	2,0
18:六月	14,714	28,685	1,360	2,672	695	351	196	129	9,2	9,3	2,4	1,2	1,3	0,9
19:西新井本町	12,053	24,239	2,552	5,334	1,064	493	276	183	21,2	22,0	4,4	2,0	2,3	1,5
20:西新井	16,215	33,446	2,768	5,975	1,316	629	308	221	17,1	17,9	3,9	1,9	1,9	1,4
21:江北	10,167	20,586	781	1,617	470	205	109	95	7,7	7,9	2,3	1,0	1,1	0,9
22:鹿浜	15,080	33,426	1,478	3,369	709	312	143	122	9,8	10,1	2,1	0,9	0,9	0,8
23:入谷	13,745	31,961	981	2,129	424	182	81	71	7,1	6,7	1,3	0,6	0,6	0,5
24:伊興	15,252	32,983	1,037	2,241	559	291	119	89	6,8	6,8	1,7	0,9	0,8	0,6
25:基幹	13,456	26,962	2,784	5,733	1,205	587	312	202	20,7	21,3	4,5	2,2	2,3	1,5
計	331,870	679,193	57,639	120,826	25,277	11,361	6,125	4,463	17,4	17,8	3,7	1,7	1,8	1,3

分譲マンション居住人口が20%以上
分譲マンション65歳以上人口が5%以上

分譲マンション居住者で見ると、分譲マンション居住人口が 20%を越えるのは、「千寿の郷」「千寿西」「千住本町」「新田」「関原」「あだち」「中央本町」「東和」「中川」「保木間」「西新井本町」「基幹」の 12 であり、特に「千寿の郷」は 42.9%、「新田」は 32.4% と分譲マンション居住者が多い。同時にこれらの地域では分譲マンション居住の高齢者数も多い傾向にある。

3. 5 住居形態別の人団地分布のまとめ

- 全住宅を対象にすると、荒川右岸の「日の出」「千寿の郷」「千住本町」「千寿西」、荒川左岸の「あだち」「関原」「西新井本町」「東和」「中川」では、戸建て住宅、マンションなどが集中し、居住者密度も高い。
- 65 歳以上の高齢者分布は、前述の居住者密度が高い地域に加えて、「江北」「保木間」「はなはた」で密度の高まりが見られる。これらは団地居住高齢者が多い地域であり、その影響によるものと考えられる。
- 地域包括単位の集計では、65 歳以上高齢者人口が 30%を越える地域として「江北」「はなはた」があげられる。
- 地域包括単位では、分譲マンション居住の割合が高い地域として「千寿の郷」42.9%、「関原」35.5%、「新田」32.4%、その他「千寿西」「千住本町」「あだち」「中央本町」「東和」「中川」「保木間」「西新井本町」「基幹」などで 20%を越えている。
- 分譲マンション居住の高齢者密度は、「千寿の郷」「千住本町」「関原」「中央本町」「中川」などで高まりが見られる。地域包括単位では分譲マンション居住の高齢者割合として「千寿の郷」で 8%程度、「関原」で 7%程度と推定される。

4. 高齢者を取り巻く各種リスクの把握

高齢者をとりまく生活環境は、地域との結びつきや買い物のし易さ、医療機関の充実度、災害時の安全度など、多様な観点で把握する必要があるが、ここでは主に災害リスクの観点から分析を行う。具体的には、洪水による浸水、地震による建物倒壊、火災延焼、避難所や避難場所への距離、医療機関等への近接性などである。

4. 1 洪水による浸水想定

洪水による浸水想定については、国土数値情報の浸水想定区域データ（平成 24 年）を使用した※。このデータは国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所および荒川下流河川事務所によるもので、荒川流域の 3 日間総雨量 548mm を計画降雨として、氾濫による浸水をシミュレーションし、区域指定したものである（平成 17 年 7 月指定）。足立区は全域が浸水し、特に南部の荒川右岸では 5m を超える浸水深となる。

※ https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-A31-v2_1.html

①リスクの数値化

データの浸水深としては、次の 7 段階（0～0.5m 未満／～1.0m 未満／～2.0m 未満／～3.0m 未満／3.0～4.0m 未満／4.0～5.0m 未満／5.0m 以上）に区分されているが、これを下記の 5 段階に再分類し、リスクの少ない（浸水深が小さい）ものからリスクの高いもの（浸水深が大きい）へ、1～5 点を付与した。

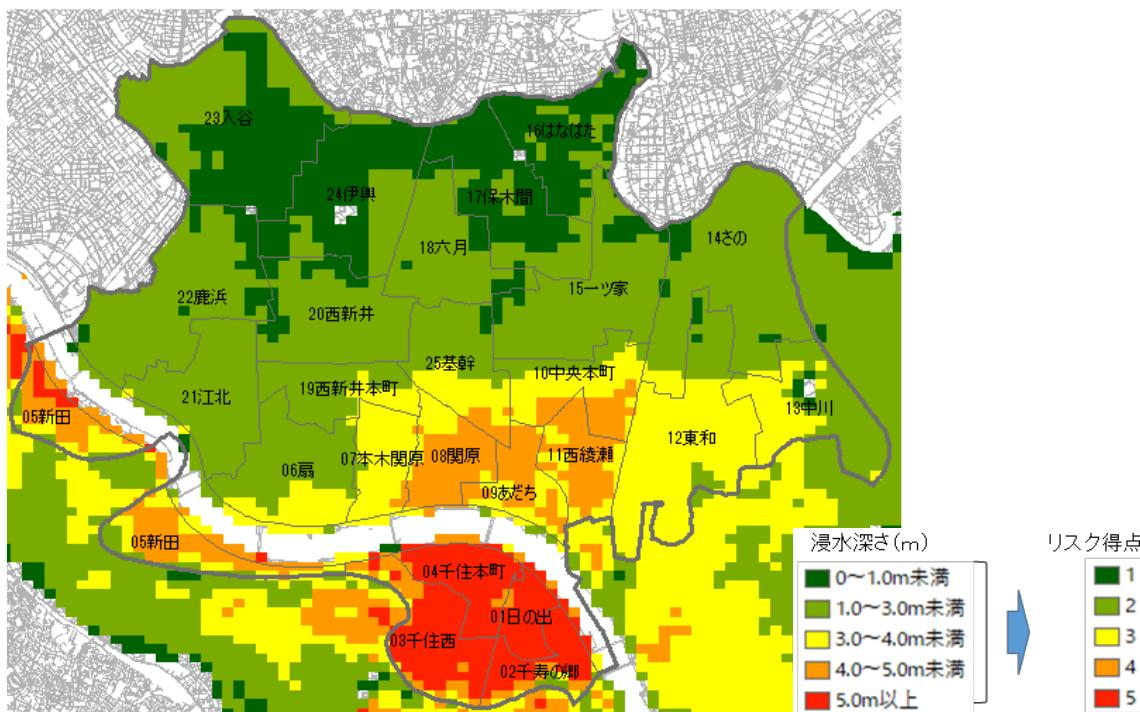


図 4.1 國土數値情報による浸水想定区域

②地域包括単位でのリスクの把握

地域包括単位で洪水による浸水リスクを集計した。地域包括ごとに 1～5 のリスク得点の占める面積割合を計算し、加重平均することにより地域包括単位での平均リスクを算出した。

区南部、荒川右岸の「日の出」「千寿の郷」「千寿西」「千寿本町」などで、リスクが高く、次に荒川左岸の「あだち」「関原」「本木関原」などでも高い傾向が見られた。

表 4.1 地域包括単位の平均リスク（浸水）

リスク	1	2	3	4	5	平均リスク
地域包括名称	リスク値ごとの面積割合(%)					
01:日の出	0.00	0.00	0.00	4.17	95.83	4.96
02:千寿の郷	0.00	6.61	6.95	16.94	69.50	4.49
03:千住西	0.00	1.21	6.33	20.86	71.60	4.63
04:千住本町	0.16	0.00	0.00	4.97	94.87	4.94
05:新田	0.06	14.18	27.19	52.78	5.79	3.50
06:扇	0.00	72.95	27.05	0.00	0.00	2.27
07:本木関原	0.00	4.26	90.83	4.91	0.00	3.01
08:関原	0.00	0.00	25.54	74.46	0.00	3.74
09:あだち	0.00	0.81	37.32	61.87	0.00	3.61
10:中央本町	0.00	24.72	48.68	26.60	0.00	3.02
11:西綾瀬	0.00	0.00	29.11	70.89	0.00	3.71
12:東和	2.09	18.34	79.43	0.14	0.00	2.78
13:中川	3.86	56.19	39.95	0.00	0.00	2.36
14:さの	5.14	89.81	5.05	0.00	0.00	2.00
15:一ツ家	11.59	88.32	0.09	0.00	0.00	1.88
16:はなはた	79.65	20.35	0.00	0.00	0.00	1.20
17:保木間	68.90	31.10	0.00	0.00	0.00	1.31
18:六月	15.29	84.71	0.00	0.00	0.00	1.85
19:西新井本町	0.00	80.01	19.99	0.00	0.00	2.20
20:西新井	16.87	83.13	0.00	0.00	0.00	1.83
21:江北	0.00	99.30	0.70	0.00	0.00	2.01
22:鹿浜	13.90	86.01	0.09	0.00	0.00	1.86
23:入谷	53.14	46.86	0.00	0.00	0.00	1.47
24:伊興	69.86	30.14	0.00	0.00	0.00	1.30
25:基幹	3.04	57.37	31.21	8.38	0.00	2.45

平均リスク 2以上3未満
平均リスク 3以上4未満
平均リスク 4以上

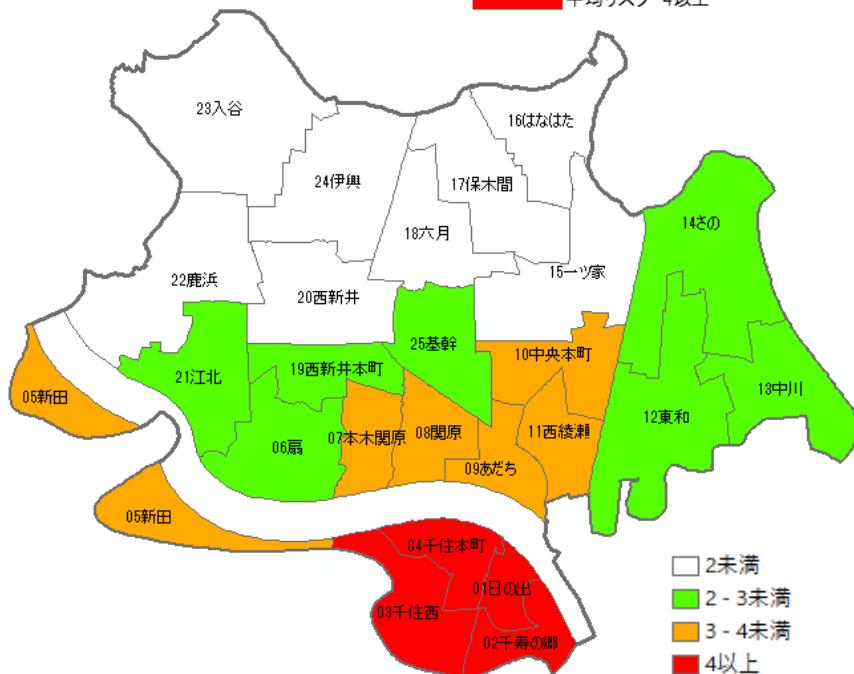


図 4.2 地域包括単位の平均リスク（浸水）

4. 2 地震による建物倒壊危険度

地震による建物倒壊については、東京都都市整備局の「地震に関する地域危険度測定調査（第8回）・2018年」※のデータを使用した。地盤特性（山地、丘陵地、台地、沖積低地など12分類）、建物量、建物特性（木造、RC造、S造等の構造別および建築年代）により、町丁目ごとに倒壊危険度を相対評価したものである。

※ https://www.toshiseibi.metro.tg.jp/bosai/chousa_6/home.htm

①リスクの数値化

データは、地盤特性、建物量、建物特性により面積当たりの建物全壊棟数（棟／ha）を計算し、町丁目ごとに1（危険性が低い）から5（危険性が高い）の5段階で順位付けされている。

本調査研究ではこの5段階分類を使用し、それぞれ1～5点を付与した。

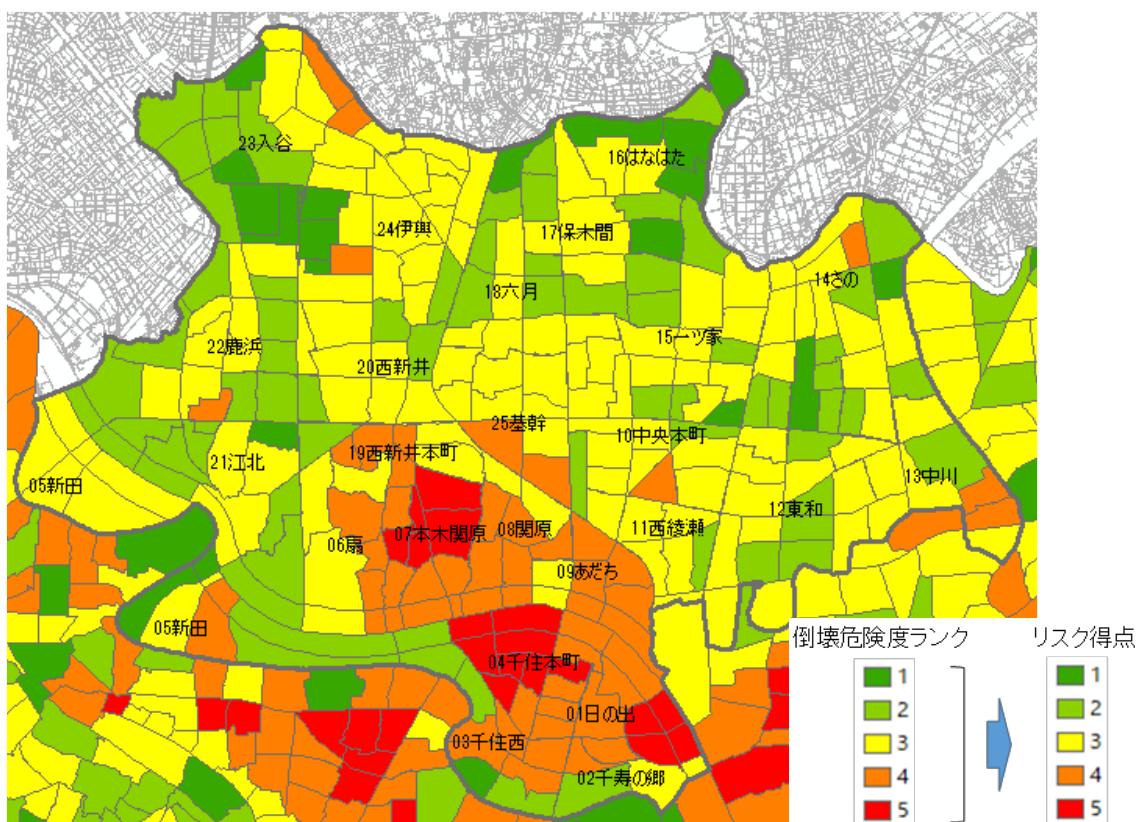


図 4.3 建物倒壊危険度（地盤特性・建物量・建物特性による）

②地域包括単位でのリスクの把握

地域包括単位で地震による建物倒壊についてのリスクを集計した。地域包括ごとに1～5のリスク得点の占める面積割合を計算し、加重平均することにより地域包括単位での平均リスクを算出した。

「日の出」「千寿本町」「木関原」などで特にリスクが高く、その周辺の「千寿西」「扇」「関原」「西綾瀬」などでも高リスクの地域が見られる。

表 4.2 地域包括単位の平均リスク (建物倒壊)

リスク	1	2	3	4	5	平均リスク
地域包括名称	リスク値ごとの面積割合(%)					
01:日の出	0.00	0.00	0.21	99.79	0.00	4.00
02:千寿の郷	0.00	33.75	26.22	12.37	27.66	3.34
03:千住西	8.77	35.11	0.00	50.25	5.87	3.09
04:千住本町	0.00	0.04	0.00	42.46	57.50	4.57
05:新田	11.31	16.25	58.91	13.53	0.00	2.75
06:扇	0.00	18.90	39.06	36.94	5.10	3.28
07:本木関原	0.00	0.00	0.08	29.66	70.26	4.70
08:関原	0.00	0.00	27.11	72.64	0.25	3.73
09:あだち	0.00	0.73	30.79	68.48	0.00	3.68
10:中央本町	6.32	9.07	84.58	0.03	0.00	2.78
11:西綾瀬	0.00	12.99	71.36	15.65	0.00	3.03
12:東和	8.23	34.53	57.24	0.00	0.00	2.49
13:中川	0.06	22.23	61.13	16.58	0.00	2.94
14:さの	4.19	33.45	58.91	3.45	0.00	2.62
15:一ツ家	0.01	23.39	76.60	0.00	0.00	2.77
16:はなはた	57.78	18.36	23.86	0.00	0.00	1.66
17:保木間	8.20	45.34	46.46	0.00	0.00	2.38
18:六月	0.04	45.32	54.64	0.00	0.00	2.55
19:西新井本町	0.00	16.05	49.26	34.69	0.00	3.19
20:西新井	0.00	23.83	76.17	0.00	0.00	2.76
21:江北	7.08	48.92	43.96	0.04	0.00	2.37
22:鹿浜	0.01	48.92	47.57	3.50	0.00	2.55
23:入谷	25.24	37.82	29.77	7.17	0.00	2.19
24:伊興	1.63	6.79	86.44	5.14	0.00	2.95
25:基幹	0.00	10.40	59.28	30.32	0.00	3.20

■ 平均リスク 2以上3未満
■ 平均リスク 3以上4未満
■ 平均リスク 4以上

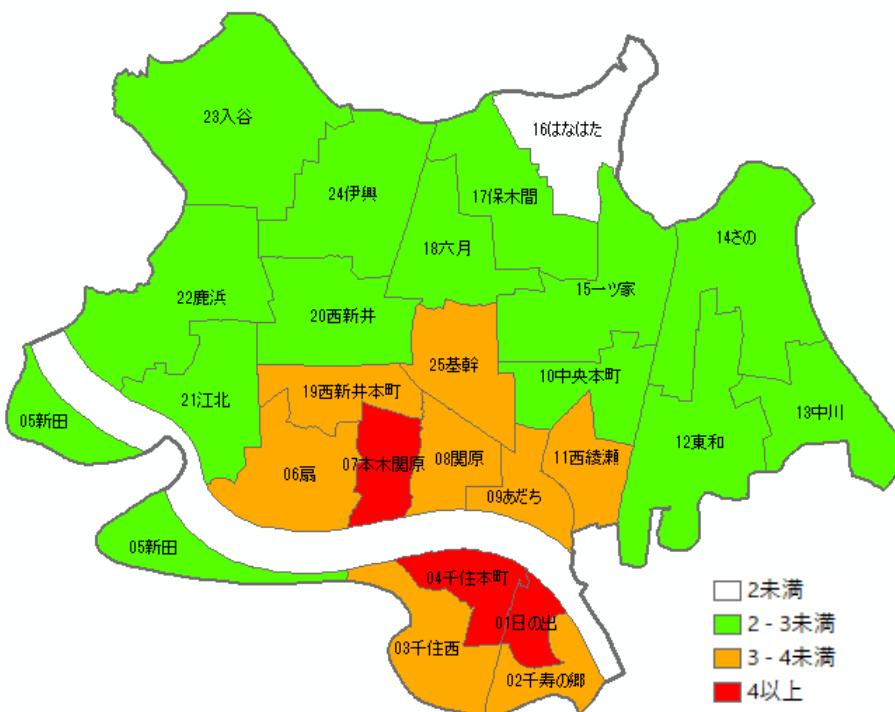


図 4.4 地域包括単位の平均リスク (建物倒壊)

4.3 火災危険度

火災危険度についても、東京都都市整備局の「地震に関する地域危険度測定調査（第8回）・2018年」※のデータを使用した。地震に伴う火災の発生による延焼の危険性を町丁目ごとに相対評価したものであり、出火の危険性（火器器具等の使用状況、地盤の搖れやすさ等）および延焼の危険性（建物量、構造、道路幅員、公園等）から測定されている。地震による火災を想定しているが、建物の種類や密集度、道路形状、公園の設置などを考慮していることから、一般の火災に対する地域の危険性の指標にもなると考えられる。

※ https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/bosaishi/chousa_6/home.htm

①リスクの数値化

データは、出火の危険性および延焼の危険性により面積当たりの建物全焼棟数（棟／ha）を計算し、町丁目ごとに1（危険性が低い）から5（危険性が高い）の5段階で順位付けされている。

本調査研究ではこの5段階分類を使用し、それぞれ1～5点を付与した。

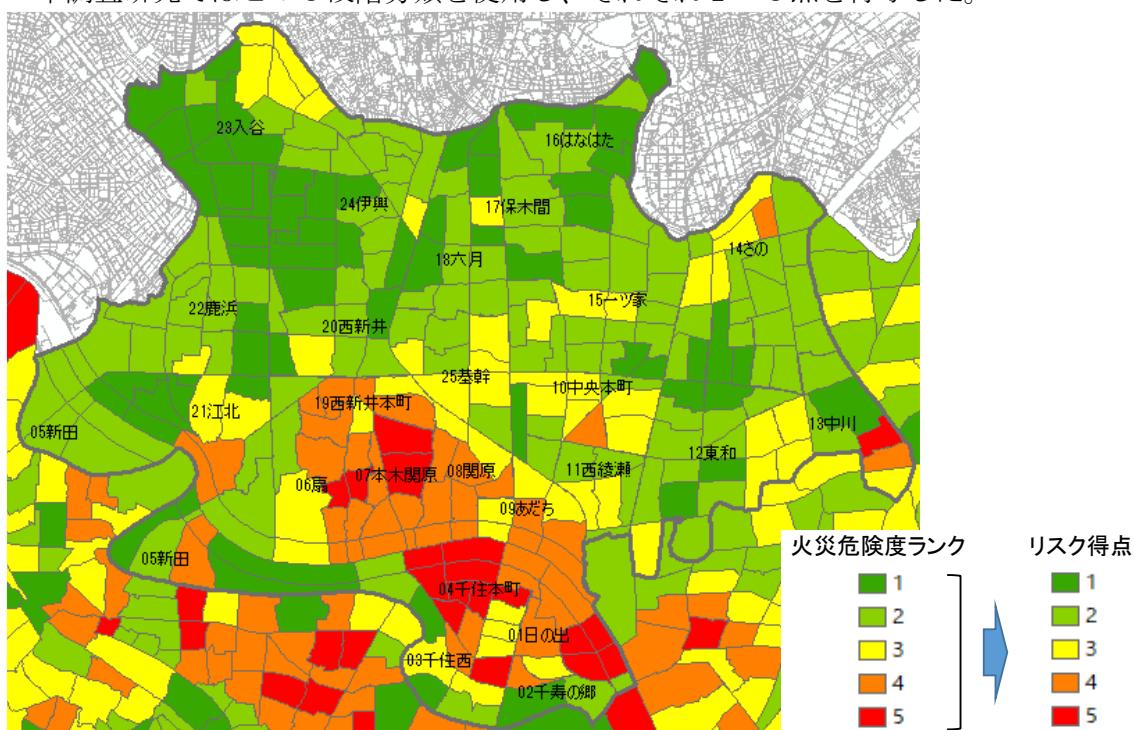


図 4.5 火災危険度（出火危険性・延焼危険性による）

②地域包括単位でのリスクの把握

地域包括単位で火災危険度についてのリスクを集計した。

地域包括ごとに1～5のリスク得点の占める面積割合を計算し、加重平均することにより地域包括単位での平均リスクを算出した。

建物倒壊危険度と同様に「千寿本町」「本木関原」などで特にリスクが高く、その周辺地域でのリスクも高い傾向にある。一方、区北部では相対的にリスクが低下する傾向が見られた。

表 4.3 地域包括単位の平均リスク (火災延焼)

リスク	1	2	3	4	5	平均リスク
地域包括名称	リスク値ごとの面積割合(%)					
01:日の出	0.00	0.21	24.01	75.78	0.00	3.76
02:千寿の郷	33.75	26.22	0.00	12.33	27.70	2.74
03:千住西	19.37	24.51	25.38	15.31	15.43	2.83
04:千住本町	0.00	0.04	29.95	12.51	57.50	4.27
05:新田	27.48	58.97	0.02	13.53	0.00	2.00
06:扇	0.00	32.67	25.18	32.54	9.61	3.19
07:本木関原	0.00	0.00	0.00	44.34	55.66	4.56
08:関原	0.00	0.00	27.07	72.68	0.25	3.73
09:あだち	0.73	16.98	48.34	33.95	0.00	3.16
10:中央本町	14.70	17.24	68.03	0.03	0.00	2.53
11:西綾瀬	0.00	53.42	31.04	15.54	0.00	2.62
12:東和	28.52	51.60	19.88	0.00	0.00	1.91
13:中川	22.15	33.38	28.01	8.18	8.28	2.47
14:さの	8.20	69.44	18.91	3.45	0.00	2.18
15:一ツ家	0.04	81.48	18.48	0.00	0.00	2.18
16:はなはた	67.62	32.38	0.00	0.00	0.00	1.32
17:保木間	33.65	60.23	6.12	0.00	0.00	1.72
18:六月	26.98	72.85	0.17	0.00	0.00	1.73
19:西新井本町	0.13	16.73	19.35	63.79	0.00	3.47
20:西新井	31.54	50.78	17.68	0.00	0.00	1.86
21:江北	36.07	19.95	30.27	13.71	0.00	2.22
22:鹿浜	22.03	74.47	3.50	0.00	0.00	1.81
23:入谷	59.87	19.52	20.61	0.00	0.00	1.61
24:伊興	42.73	53.27	4.00	0.00	0.00	1.61
25:基幹	10.40	38.67	50.93	0.00	0.00	2.41

■ 平均リスク 2以上3未満
■ 平均リスク 3以上4未満
■ 平均リスク 4以上

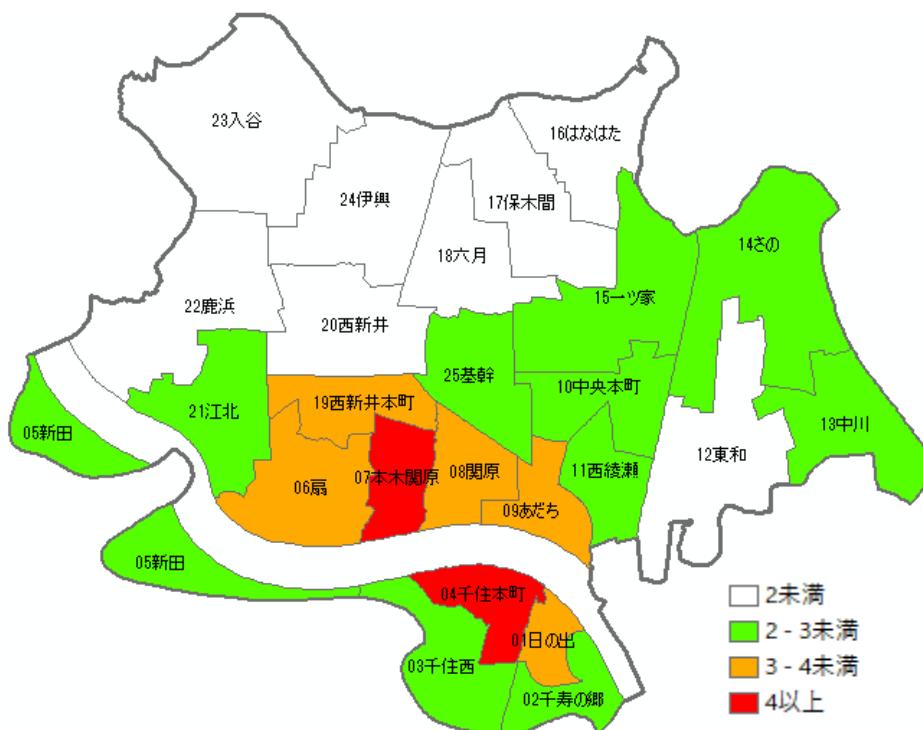


図 4.6 地域包括単位の平均リスク (火災延焼)

4. 4 避難所への近接性に関する危険度

足立区には災害時の避難所として、第一次避難所（小中学校、都立高校など）および第二次避難所（福祉避難所）が設置されている※。第二次避難所は、第一次避難所での生活が難しい要配慮者の方々のために、福祉施設や地域学習センターなどが指定されている。高齢者にとってこれら避難所への移動距離は避難時のリスク要素として大きく、避難所への近接性から分析を行う。

※ <https://www.city.adachi.tokyo.jp/saigai/bosai/bosai/hinanjo-tejun.html>

①リスクの数値化

データは国土数値情報および足立区ホームページ掲載情報を使用した。左図は避難所の分布および各避難所からの距離を5段階に区分したものである。区分にあたっては、距離別のヒストグラムの変化の大きい点で区分する自然分類手法により5区分を行った。大部分の地域では500m以内の避難所へ到達することができる。

本調査研究ではこの5段階分類を使用し、避難所に近く低リスクの地域から避難所から遠く高リスクの地域まで1～5点を付与した。

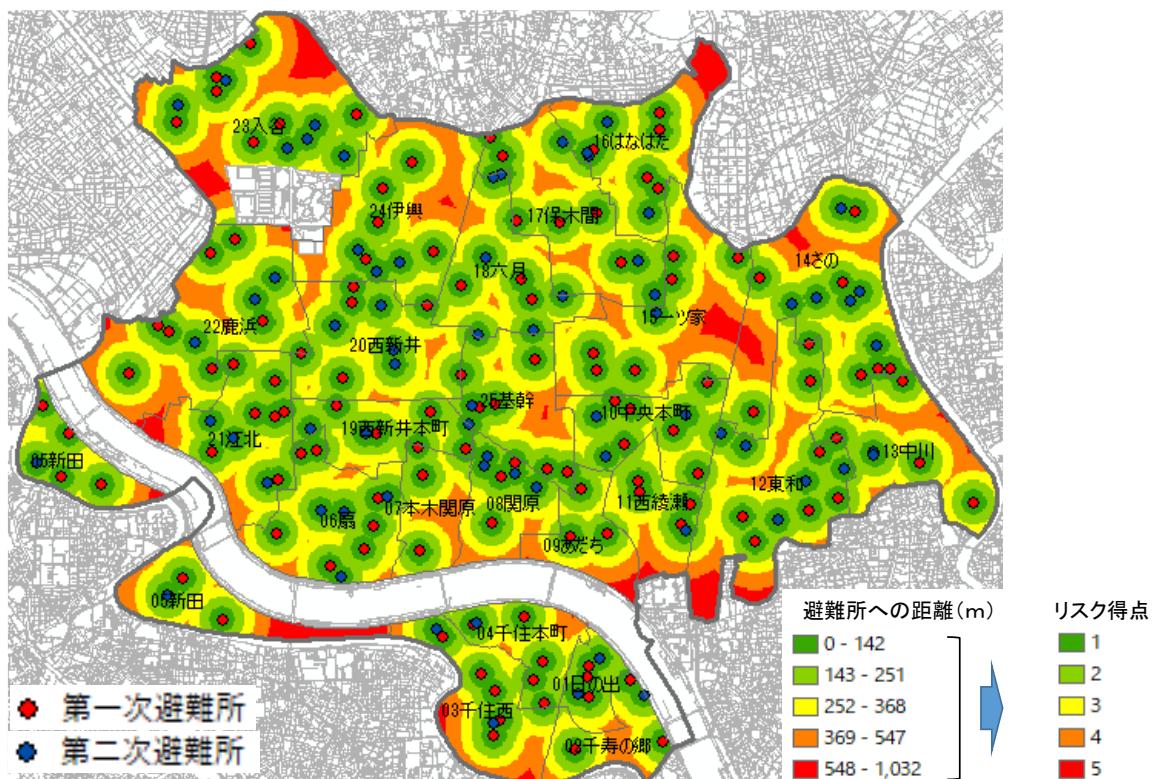


図4.7 避難所への近接性

②地域包括単位でのリスクの把握

地域包括単位で避難所への近接性についてのリスクを集計した。

地域包括ごとに1～5のリスク得点の占める面積割合を計算し、加重平均することにより地域包括単位での平均リスクを算出した。

ほとんどの地域で平均リスクは3ポイント以下であり、区内では地域的な差があまり見られない。

表 4.4 地域包括単位の平均リスク（避難所近接性）

リスク	1	2	3	4	5	平均リスク
地域包括名称	リスク値ごとの面積割合(%)					
01:日の出	42.02	39.69	14.34	3.95	0.00	1.80
02:千寿の郷	20.03	30.33	30.75	18.81	0.08	2.49
03:千住西	22.60	30.09	23.35	20.24	3.72	2.52
04:千住本町	29.60	39.62	22.10	8.60	0.08	2.10
05:新田	22.49	33.28	23.78	10.40	10.05	2.52
06:扇	31.28	36.60	27.65	4.47	0.00	2.05
07:本木関原	17.61	33.14	29.74	19.51	0.00	2.51
08:関原	32.29	29.89	27.43	10.39	0.00	2.16
09:あだち	20.26	33.02	22.29	18.64	5.79	2.57
10:中央本町	35.62	44.13	18.24	2.01	0.00	1.87
11:西綾瀬	22.16	33.99	27.91	12.99	2.95	2.41
12:東和	23.41	29.98	26.04	13.33	7.24	2.51
13:中川	16.64	32.99	31.08	18.31	0.98	2.54
14:さの	20.92	29.94	27.54	17.77	3.83	2.54
15:一ツ家	16.55	25.68	31.54	21.88	4.35	2.72
16:はなはた	22.71	30.79	27.63	8.99	9.88	2.53
17:保木間	24.71	35.11	29.00	11.18	0.00	2.27
18:六月	23.82	40.64	29.09	6.45	0.00	2.18
19:西新井本町	31.20	46.51	20.77	1.52	0.00	1.93
20:西新井	23.51	38.90	31.78	5.81	0.00	2.20
21:江北	29.52	36.22	21.12	10.13	3.01	2.21
22:鹿浜	19.98	29.47	29.56	19.80	1.19	2.53
23:入谷	20.48	28.44	22.34	19.52	9.22	2.69
24:伊興	18.57	29.87	27.73	23.36	0.47	2.57
25:基幹	27.06	32.71	26.12	13.54	0.57	2.28

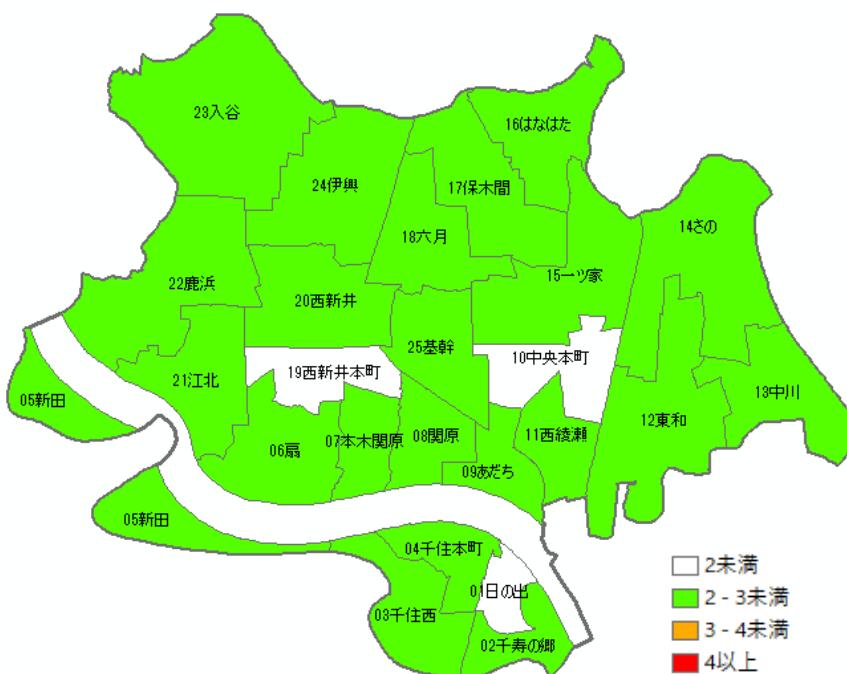
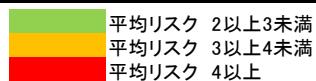


図 4.8 地域包括単位の平均リスク（避難所近接性）

4.5 避難場所への近接性に関する危険度

避難場所とは、大地震などで延焼火災が発生した場合、大火から身を守るために避難する場所であり、公園、緑地、広場、集合住宅および学校等のオープンスペースが指定される。また、万が一火災が発生しても、地区内に大規模な延焼火災のおそれがなく、広域的な避難を要しない区域として、地区内残留地区が指定されている*。

高齢者にとってこれら避難場所等への移動距離が長い場合は、避難時のリスク要素となるため近接性の視点から分析を行う。

※ <https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/bosai/hinan/hinan01.htm>

①リスクの数値化

データは東京都都市整備局の「避難場所等の一覧（shp 形式）」を使用した。左図は避難場所および地区内残留地区の位置と、それらへの到達距離を 5 段階に区分したものである。区分にあたっては、距離別のヒストグラムの変化の大きい点で区分する自然分類手法により行った。一部で到達までに 1km を超える地域も見られた。

本調査研究ではこの5段階分類を使用し、避難場所に近く低リスクの地域から避難場所から遠く高リスクの地域まで1～5点を付与した。

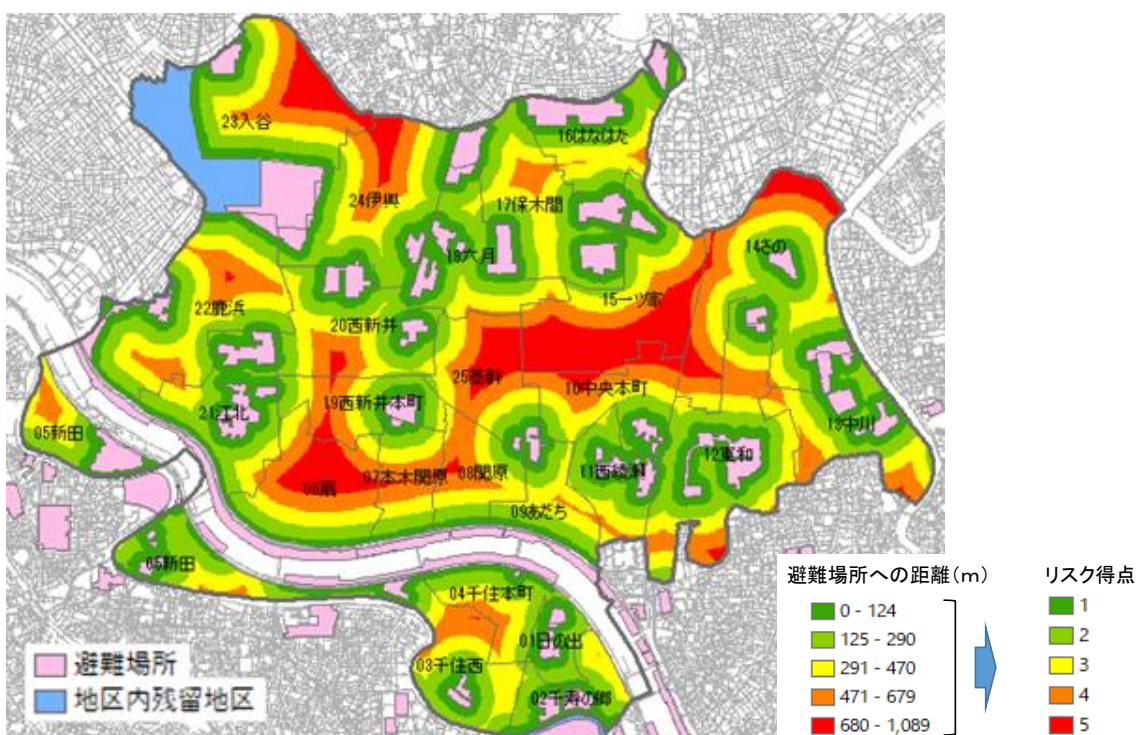


図 4.9 避難場所への近接性

②地域包括単位でのリスクの把握

地域包括単位で避難場所への近接性についてのリスクを集計した。
地域包括ごとに1～5のリスク得点の占める面積割合を計算し、加重平均することにより地域包括単位での平均リスクを算出した。

「扇」「関原」「中央本町」「一つ家」「基幹」などで、平均リスクが3ポイントを超え、避難場所への近接性に関しては、相対的にリスクが高いといえる。

表 4.5 地域包括単位の平均リスク（避難場所近接性）

リスク	1	2	3	4	5	平均リスク
地域包括名称	リスク値ごとの面積割合(%)					
01:日の出	65.47	34.18	0.35	0.00	0.00	1.35
02:千寿の郷	44.99	34.08	20.85	0.08	0.00	1.76
03:千住西	24.28	31.97	27.63	15.90	0.22	2.36
04:千住本町	17.78	36.35	33.70	12.17	0.00	2.40
05:新田	37.91	32.01	22.50	7.58	0.00	2.00
06:扇	6.66	16.29	23.21	28.56	25.28	3.50
07:本木閑原	13.34	24.08	27.75	31.66	3.17	2.87
08:閑原	8.42	19.70	35.72	33.13	3.03	3.03
09:あだち	20.09	37.91	38.40	3.60	0.00	2.26
10:中央本町	19.26	15.90	23.80	27.57	13.47	3.00
11:西綾瀬	43.92	34.13	17.81	4.14	0.00	1.82
12:東和	33.05	30.93	20.83	14.24	0.95	2.19
13:中川	38.19	22.21	22.94	16.01	0.65	2.19
14:さの	16.94	23.65	25.45	22.04	11.92	2.88
15:一ツ家	8.09	12.87	13.87	21.80	43.37	3.79
16:はなはた	51.77	25.23	20.91	2.09	0.00	1.73
17:保木間	33.75	33.09	26.42	6.74	0.00	2.06
18:六月	50.07	29.70	18.31	1.92	0.00	1.72
19:西新井本町	21.81	28.39	19.40	25.51	4.89	2.63
20:西新井	30.12	31.09	24.41	12.08	2.30	2.25
21:江北	55.91	28.45	13.05	2.59	0.00	1.62
22:鹿浜	22.42	28.95	32.34	15.96	0.33	2.43
23:入谷	39.80	16.45	16.58	14.78	12.39	2.44
24:伊興	23.25	29.47	21.45	18.11	7.72	2.58
25:基幹	10.54	13.04	21.62	32.04	22.76	3.43

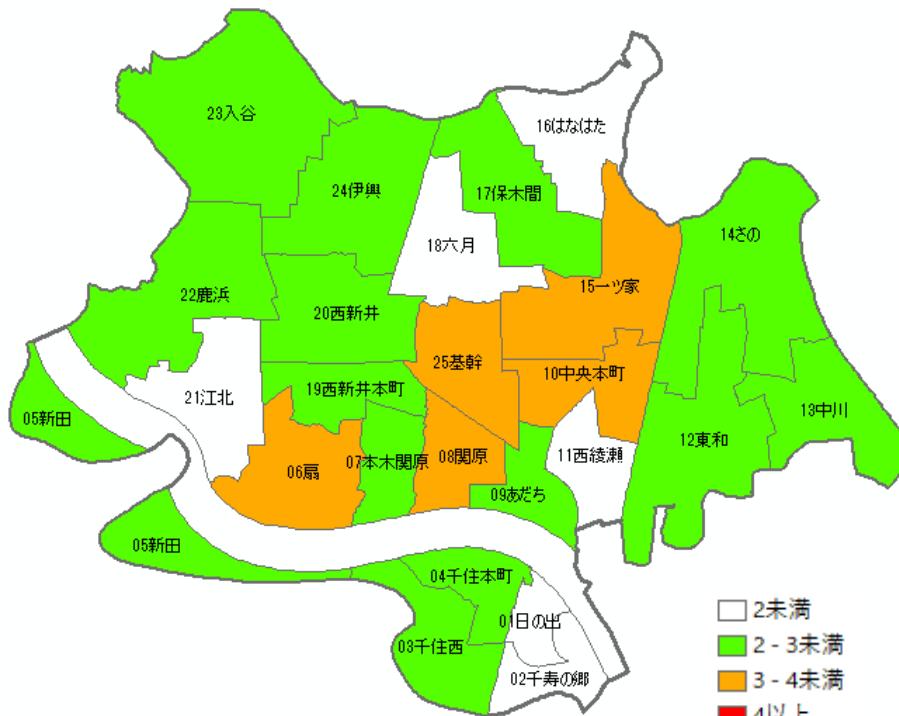
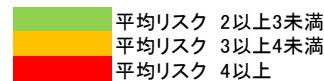


図 4.10 地域包括単位の平均リスク（避難場所近接性）

4.6 医療機関への近接性に関する危険度

高齢者を取り巻く生活環境を把握するうえで、かかりつけ医の存在など、身近に医療機関が存在することは重要である。そこで医療機関への到達距離が長いことは高リスクととらえ、近接性の視点から分析を行った。使用したデータは国土数値情報の医療機関データ（平成 26 年）[※]であり、医療機関として病院、診療所、歯科診療所が含まれる。

※ https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-P04-v2_1.html

①リスクの数値化

医療機関データから歯科診療所を除き、病院および診療所データを作成した。左図は病院および診療所の位置と、それらへの到達距離を5段階に区分したものである。区分にあたっては、距離別のヒストグラムの変化の大きい点で区分する自然分類手法により行った。一部で到達までに500mを超える地域も見られた。

本調査研究ではこの5段階分類を使用し、医療機関に近い低リスクの地域から、避難場所から遠い高リスクの地域まで1～5点を付与した。

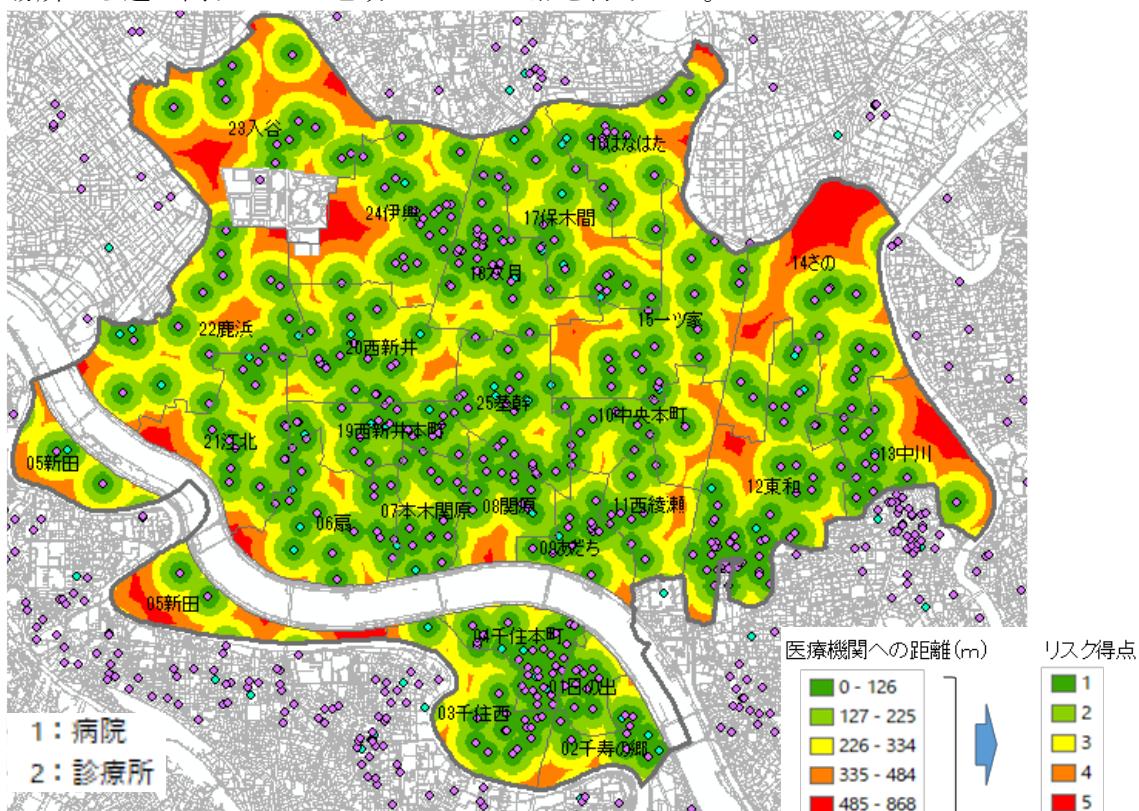


図 4.11 医療機関（病院・診療所）への近接性

②地域包括単位でのリスクの把握

地域包括単位で医療機関への近接性についてのリスクを集計した。
地域包括ごとに1～5のリスク得点の占める面積割合を計算し、加重平均することにより地域包括単位での平均リスクを算出した。

区中央部の「日の出」「千住本町」「あだち」「関原」「本木関原」「西新井本町」「基幹」等に対して、周辺部の地域で相対的にリスクが高い傾向にあるが、全体的に平均リスクは3ポイント以下で、身近に医療機関が立地しているといえる。

表 4.6 地域包括単位の平均リスク（医療機関近接性）

リスク	1	2	3	4	5	平均リスク
地域包括名称	リスク値ごとの面積割合(%)					
01:日の出	57.66	32.06	10.28	0.00	0.00	1.53
02:千寿の郷	39.24	28.67	22.79	9.30	0.00	2.02
03:千住西	35.31	34.14	26.02	4.46	0.07	2.00
04:千住本町	67.33	25.44	7.11	0.12	0.00	1.40
05:新田	10.38	23.68	31.54	26.69	7.71	2.98
06:扇	34.99	36.74	19.90	6.32	2.05	2.04
07:本木関原	55.25	37.55	7.20	0.00	0.00	1.52
08:閑原	40.72	31.62	16.67	10.10	0.89	1.99
09:あだち	43.97	37.31	14.96	3.76	0.00	1.78
10:中央本町	28.71	36.74	26.07	8.48	0.00	2.14
11:西綾瀬	32.82	35.85	23.88	7.45	0.00	2.06
12:東和	40.11	33.35	17.35	7.96	1.23	1.97
13:中川	27.21	25.09	17.20	19.31	11.19	2.62
14:さの	15.85	24.13	23.93	19.98	16.11	2.96
15:一ツ家	25.61	37.49	27.27	9.57	0.06	2.21
16:はなはた	25.11	33.46	29.47	10.37	1.59	2.30
17:保木間	32.20	40.83	22.05	4.92	0.00	2.00
18:六月	43.74	36.05	18.01	2.20	0.00	1.79
19:西新井本町	55.29	36.06	8.65	0.00	0.00	1.53
20:西新井	29.90	40.24	25.28	4.58	0.00	2.05
21:江北	28.67	33.85	23.01	10.52	3.95	2.27
22:鹿浜	23.14	35.70	29.25	10.69	1.22	2.31
23:入谷	15.00	22.82	28.02	28.14	6.02	2.87
24:伊興	26.43	31.02	23.82	12.61	6.12	2.41
25:基幹	42.33	41.17	15.83	0.67	0.00	1.75

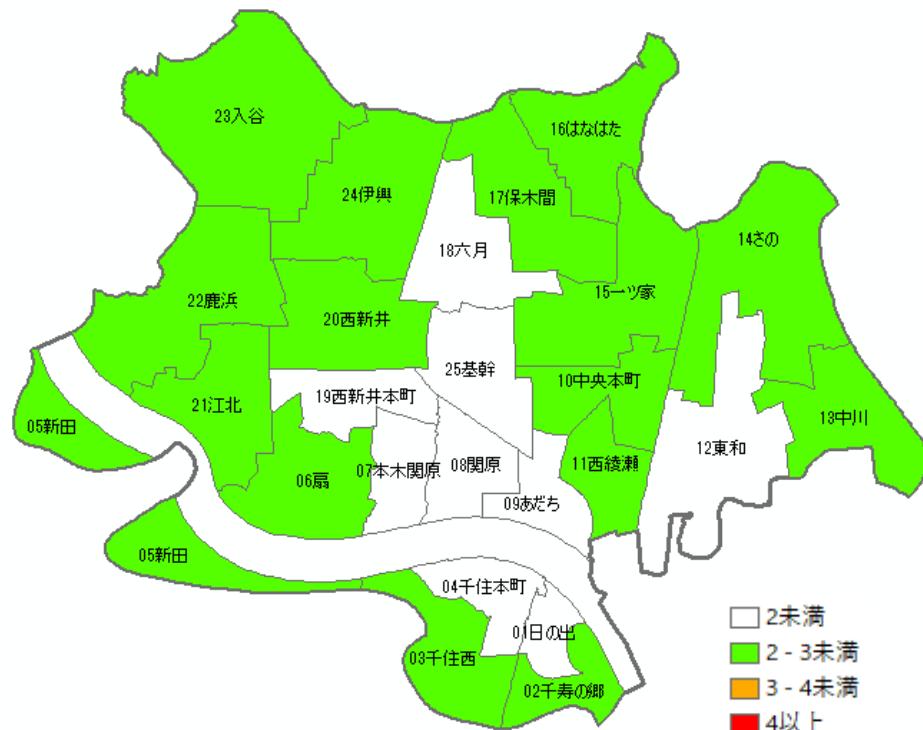
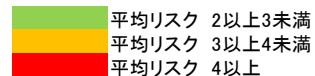


図 4.12 地域包括単位の平均リスク（医療機関近接性）

4. 7 認知症サポート医への近接性に関する危険度

認知症サポート医については、東京都福祉保健局による「とうきょう認知症ナビ*」により検索した結果、足立区内で31施設が存在する。そこで身近に相談できる認知症サポート医が存在しないことは高リスクととらえ、近接性の視点から分析を行った。

* https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/zaishien/ninchishou_navi/

①リスクの数値化

次図は認知症サポート医の位置と、それらへの到達距離を5段階に区分したものである。区分にあたっては、距離別のヒストグラムの変化の大きい点で区分する自然分類手法により行った。一部で到達までに500mを超える地域も見られた。

本調査研究ではこの5段階分類を使用し、認知症サポート医に近い低リスクの地域から、避難場所から遠い高リスクの地域まで1～5点を付与した。絶対的な施設数が少ないことから分布の偏りが見られ、新田などでは、到達に2.5kmを要する地域もある。

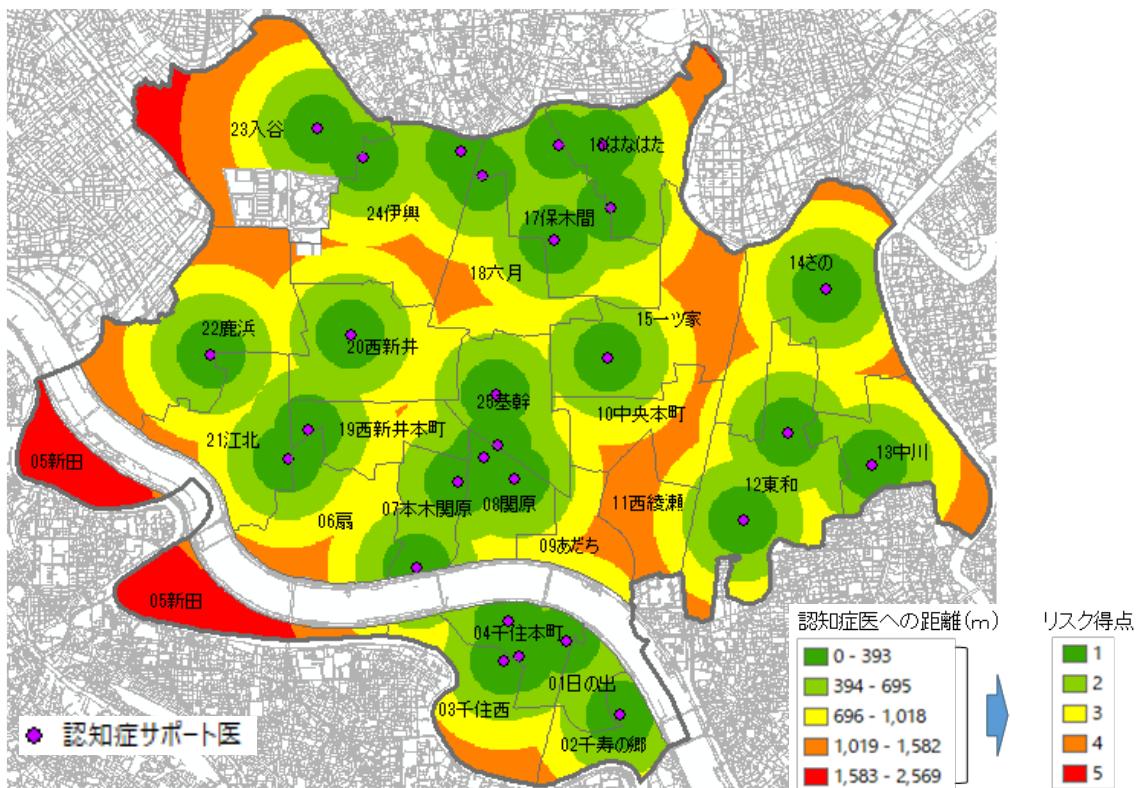


図 4.13 認知症サポート医への近接性

②地域包括単位でのリスクの把握

地域包括単位で認知症サポート医への近接性についてのリスクを集計した。地域包括ごとに1～5のリスク得点の占める面積割合を計算し、加重平均することにより地域包括単位での平均リスクを算出した。

「日の出」「千住本町」「関原」「本木関原」「基幹」「保木間」等では、認知症サポート医が比較的多いが、それ以外の地域では、到達距離が長くリスクが高い傾向にある。特に「新田」にはサポート医がおらずリスクが高い。

表 4.7 地域包括単位の平均リスク（認知症サポート医近接性）

リスク	1	2	3	4	5	平均リスク
地域包括名称	リスク値ごとの面積割合(%)					
01:日の出	43.40	56.53	0.07	0.00	0.00	1.57
02:千寿の郷	36.70	38.56	20.47	4.27	0.00	1.92
03:千住西	15.63	27.27	35.97	21.13	0.00	2.63
04:千住本町	76.02	23.94	0.04	0.00	0.00	1.24
05:新田	0.00	0.00	1.72	6.17	92.11	4.90
06:扇	12.10	25.46	47.39	15.05	0.00	2.65
07:本木関原	51.79	46.62	1.59	0.00	0.00	1.50
08:関原	50.93	38.15	10.92	0.00	0.00	1.60
09:あだち	0.00	9.14	66.08	24.78	0.00	3.16
10:中央本町	0.00	13.44	58.93	27.63	0.00	3.14
11:西綾瀬	0.00	5.53	28.72	65.75	0.00	3.60
12:東和	28.37	45.44	23.75	2.44	0.00	2.00
13:中川	25.46	28.66	29.85	16.03	0.00	2.36
14:さの	14.24	35.38	39.55	10.83	0.00	2.47
15:一ツ家	17.50	28.98	21.21	32.31	0.00	2.68
16:はなはた	41.73	27.10	16.27	14.02	0.88	2.05
17:保木間	44.99	41.50	13.51	0.00	0.00	1.69
18:六月	13.73	28.50	43.65	14.12	0.00	2.58
19:西新井本町	26.63	35.35	37.31	0.71	0.00	2.12
20:西新井	22.71	50.36	26.93	0.00	0.00	2.04
21:江北	20.34	41.45	31.54	6.67	0.00	2.25
22:鹿浜	12.45	26.54	30.74	30.27	0.00	2.79
23:入谷	18.40	18.39	16.97	33.67	12.57	3.04
24:伊興	21.84	29.09	38.38	10.69	0.00	2.38
25:基幹	44.90	47.80	7.30	0.00	0.00	1.62

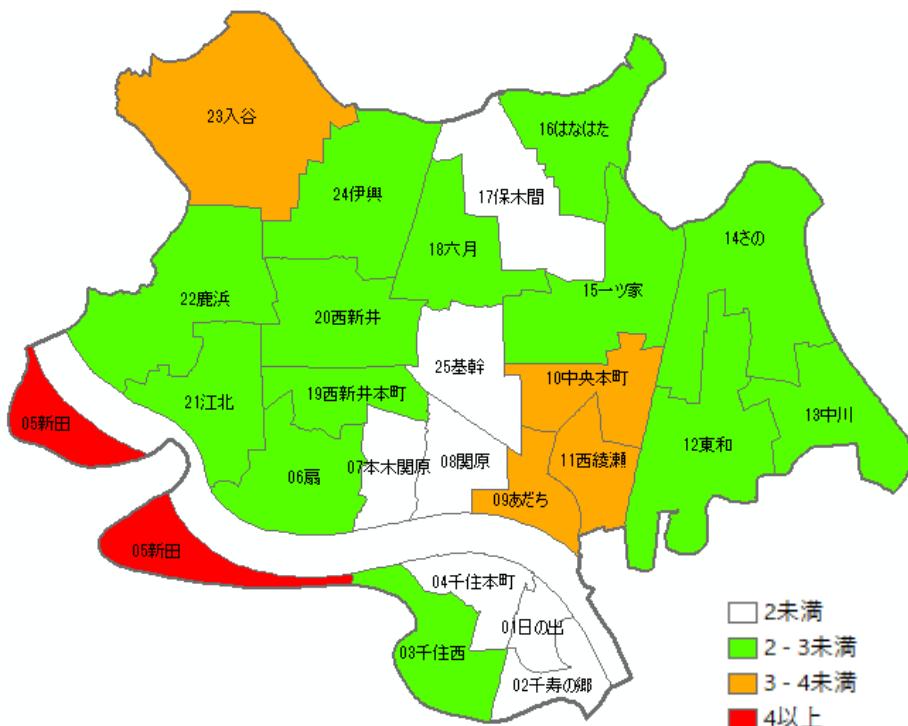
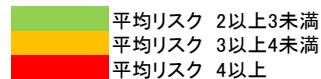


図 4.14 地域包括単位の平均リスク（認知症サポート医近接性）

4. 8 地域包括単位での高齢者を取り巻くリスクのまとめ

地域包括単位で平均リスクをまとめ、それらの合計値を総合リスクとして次に示した。リスク項目として7項目あり、それぞれ5段階評価のため、7～35ポイントの範囲で総合リスク値が求められる。

結果は地域包括単位で「はなはた」が12.79で最も低く、「千住本町」が20.92で最も高リスク地域となった。総合リスクが20ポイントを超えている地域は「千住西」「千住本町」「新田」「本木関原」「あだち」の各地域である。

表 4.8 地域包括単位の総合リスク

地域包括名称	洪水時の浸水深	建物倒壊危険度	火災危険度	避難所への距離	避難場所への距離	医療機関への距離	認知症サポート医への距離	総合リスク
01:日の出	4.96	4.00	3.76	1.80	1.35	1.53	1.57	18.97
02:千寿の郷	4.49	3.34	2.74	2.49	1.76	2.02	1.92	18.76
03:千住西	4.63	3.09	2.83	2.52	2.36	2.00	2.63	20.06
04:千住本町	4.94	4.57	4.27	2.10	2.40	1.40	1.24	20.92
05:新田	3.50	2.75	2.00	2.52	2.00	2.98	4.90	20.65
06:扇	2.27	3.28	3.19	2.05	3.50	2.04	2.65	18.98
07:本木関原	3.01	4.70	4.56	2.51	2.87	1.52	1.50	20.67
08:関原	3.74	3.73	3.73	2.16	3.03	1.99	1.60	19.98
09:あだち	3.61	3.68	3.16	2.57	2.26	1.78	3.16	20.22
10:中央本町	3.02	2.78	2.53	1.87	3.00	2.14	3.14	18.48
11:西綾瀬	3.71	3.03	2.62	2.41	1.82	2.06	3.60	19.25
12:東和	2.78	2.49	1.91	2.51	2.19	1.97	2.00	15.85
13:中川	2.38	2.94	2.47	2.54	2.19	2.62	2.36	17.48
14:さの	2.00	2.62	2.18	2.54	2.88	2.96	2.47	17.65
15:一ツ家	1.88	2.77	2.18	2.72	3.79	2.21	2.68	18.23
16:はなはた	1.20	1.66	1.32	2.53	1.73	2.30	2.05	12.79
17:保木間	1.31	2.38	1.72	2.27	2.06	2.00	1.69	13.43
18:六月	1.85	2.55	1.73	2.18	1.72	1.79	2.58	14.40
19:西新井本町	2.20	3.19	3.47	1.93	2.63	1.53	2.12	17.07
20:西新井	1.83	2.76	1.86	2.20	2.25	2.05	2.04	14.99
21:江北	2.01	2.37	2.22	2.21	1.62	2.27	2.25	14.95
22:鹿浜	1.86	2.55	1.81	2.53	2.43	2.31	2.79	16.28
23:入谷	1.47	2.19	1.61	2.69	2.44	2.87	3.04	16.31
24:伊興	1.30	2.95	1.61	2.57	2.58	2.41	2.38	15.80
25:基幹	2.45	3.20	2.41	2.28	3.43	1.75	1.62	17.14

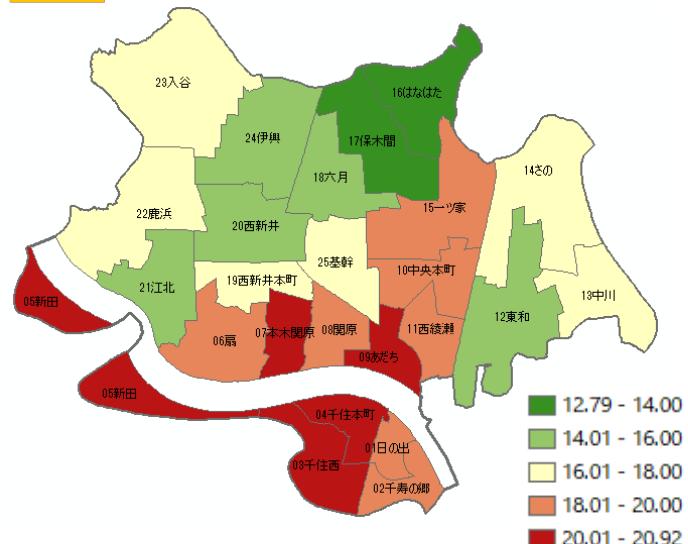
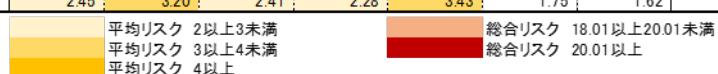


図 4.15 地域包括単位の総合リスク

- 総合リスクが20ポイントを超えて高い地域は荒川沿いに集中し、「千住西」「千住本町」「新田」「本木関原」「あだち」の各地域であり、これらと隣接する「日の出」「千寿の郷」「関原」「扇」も高リスクである。
- 前述の地域でリスクが高くなる要因としては、低地域で建物密度も高いことから、洪水時の浸水深、建物倒壊危険度、火災危険度が高くなることが考えらえる。
- 高リスク地域はまた、居住者人口が多く高齢者密度も高い地域と重なるため、在宅避難等を含めた災害時の避難行動、要配慮者への支援策など検討課題も多い。
- 避難場所への近接性、認知症サポート医への近接性では、「扇」「関原」「中央本町」「新田」「あだち」などでリスクが高く、荒川沿いの高リスク地域と重なる。
- 避難所への近接性、医療機関への近接性は地域間での差が小さく、全体的にリスクは低い
- 区北部地域はリスクが低い傾向にある。

5. 「平成 27 年度 足立区介護予防チェックリスト」調査データを用いた住居形態との関係分析

注：「平成 27 年度 足立区介護予防チェックリスト」調査は、以下「足立区 2015 年調査」と呼ぶ。

5. 1 足立区 2015 年調査データの集計・分析について

以下の手順により町丁目単位でデータを集計し、人づきあいや地域との関りに関する項目と住居形態との関係を把握した。

調査票発送対象者：132,005 名　返送：78,917 名　有効回答：75,358 名

対象者の位置情報は町丁目まで

①集計方法

- ・262 の町丁目単位で回答項目を数値化し全体の傾向を把握する
- ・回答項目は「1. はい、2. いいえ」や、「1. とてもそう思う 2. まあまあそう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない」など、名義尺度や順序尺度のため、「1. はい」の割合、「1. とてもそう思う 2. まあまあそう思う」の合計値の割合などにより数値化する。

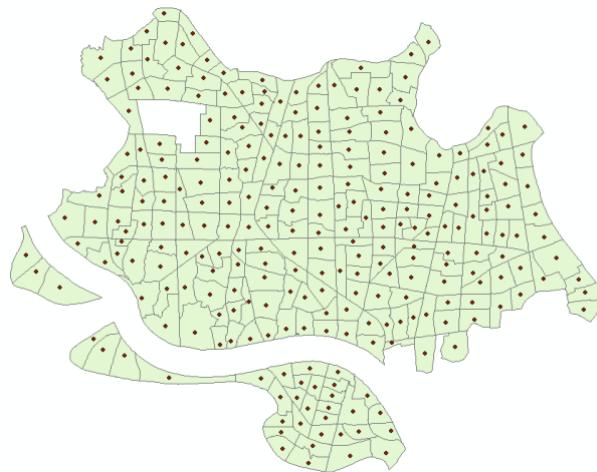


図 5.1 町丁目（262）と有効回答者（75,358 名）の位置

②住居形態の把握について

町丁目単位で、戸建て住宅、マンション、アパートなどの延床面積を把握し、それらの比率から町丁目単位で住居形態を把握する。

③住居形態と設問項目との関係に関する分析

上記①と②により 262 の町丁目単位で、足立区 2015 年調査データの各設問項目の回答割合と住居形態別の延べ床面積割合を把握し、両者を 2 変数とする。それら 2 変数を散布図にプロットし、両者間に相関関係があるか否かを相関係数の有意確率（p 値）により判断する。

④要介護認定と住居形態等の関係についての分析

足立区 2015 年調査の対象者に対して、その 2 年後および 5 年後の 2017 年、2020 年時点で、要支援および要介護と認定された方を 262 の町丁目単位で集計し、町丁目ごとの認定率と住居形態との関連を把握する。

⑤地域包括支援担当地区別の特徴

25 の地域包括支援担当地区を住居形態の傾向により 5 つに分類し、設問項目との関係により特徴を把握する。

5. 2 町丁目単位の集計結果（割合）

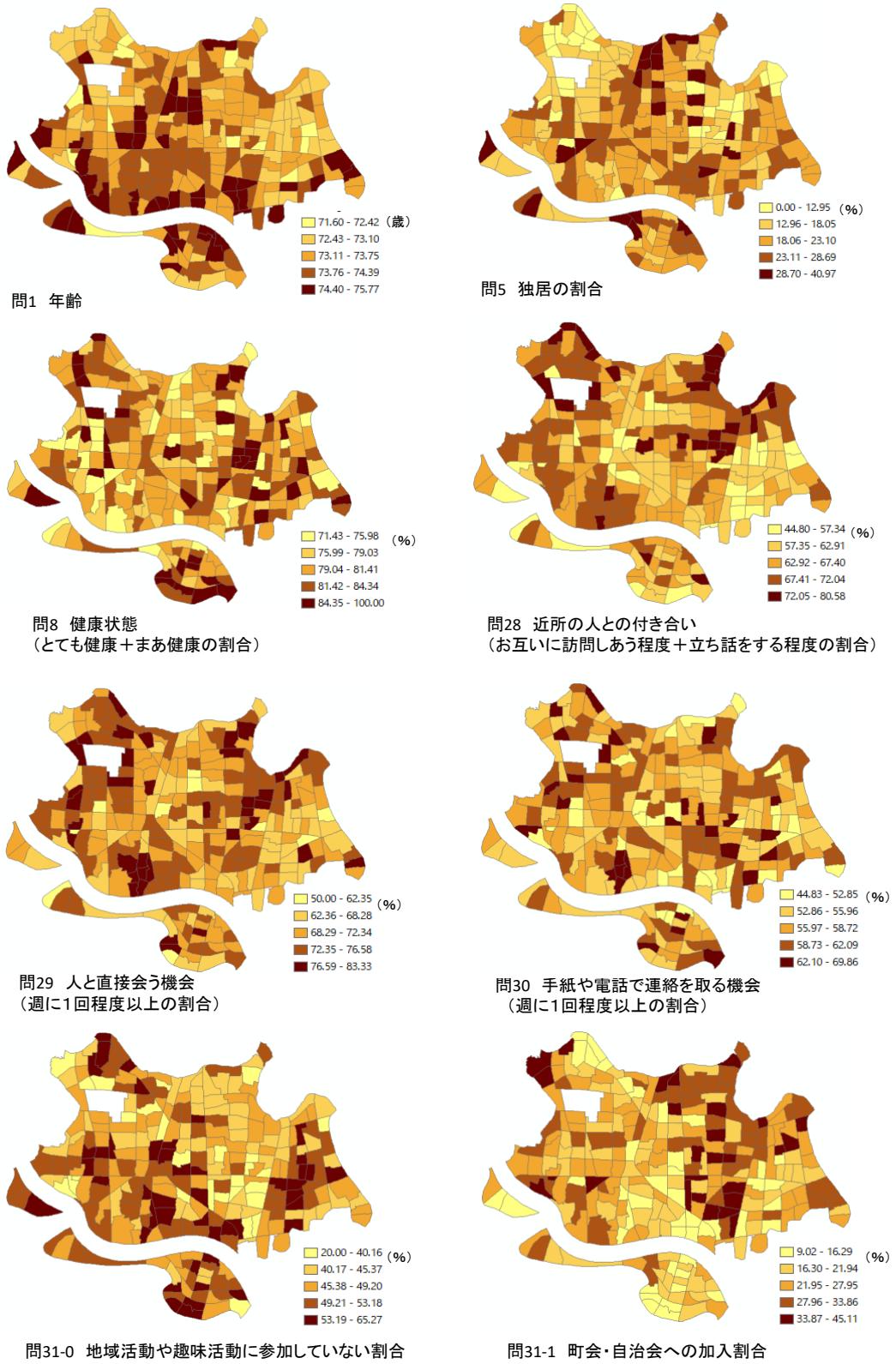
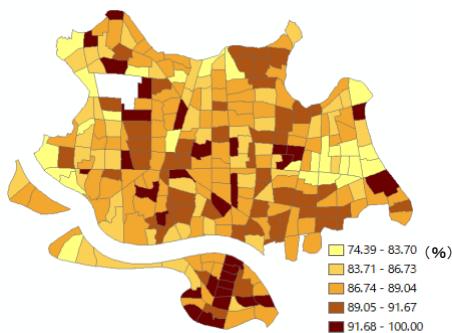
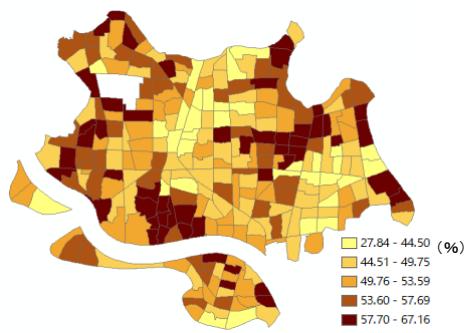


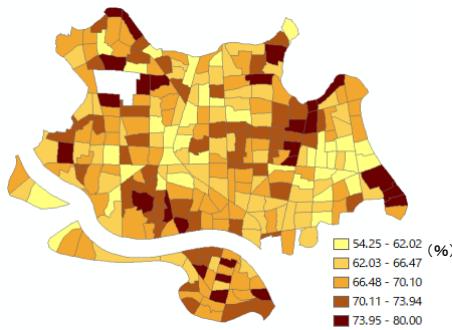
図 5.2 町丁目単位の集計結果（2015 年調査）その 1



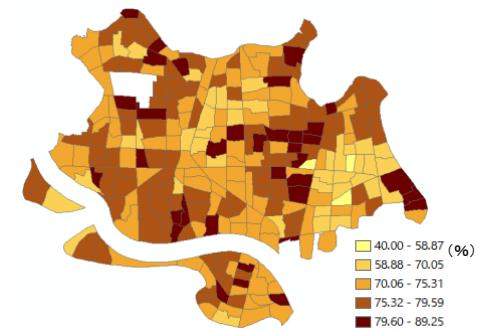
問33-1 地域への愛着を感じる
(とてもそう思う+まあまあそう思う の割合)



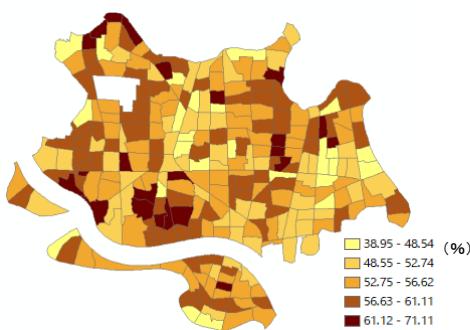
問33-2 近所で密接な付き合いをする人が多い
(とてもそう思う+まあまあそう思う の割合)



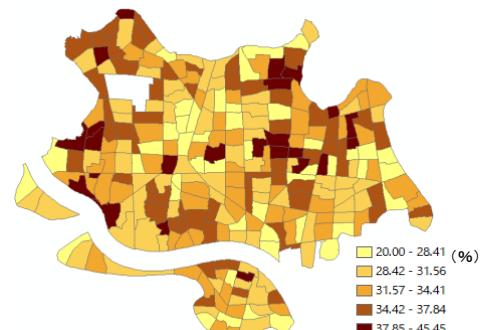
問33-3 近所の人に対して信頼感を持っている
(とてもそう思う+まあまあそう思う の割合)



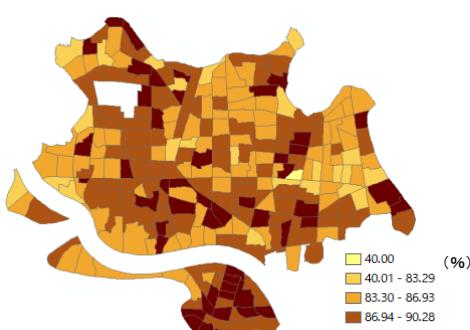
問33-4 近隣地域の一員であると感じる
(とてもそう思う+まあまあそう思う の割合)



問33-5 自分と背景が似ている人との付き合いが多い
(とてもそう思う+まあまあそう思う の割合)



問33-6 自分と背景が異なる人との付き合いが多い
(とてもそう思う+まあまあそう思う の割合)



問33-7 現在住んでいる地域にこれからも住み続けたい
(とてもそう思う+まあまあそう思う の割合)

図 5.3 町丁目単位の集計結果（2015 年調査）その 2

5. 3 住居形態の把握

- ①住宅ポイントデータおよび分譲マンションデータにより、次の建物区分に分類
(ハイブリッドデータ評価法 p3 参照)

個人家屋（戸建て住宅）、賃貸マンション、分譲マンション、アパート、団地（UR,公営団地、公営アパート等）、寮・社宅、事業所住宅（事業所商店等併用住宅）、事業所系（飲食、物販、各種サービス業）、商業施設系（商業系事業所、オフィス系の事業所）

- ②町丁目ごとに、上記建物区分の延べ床面積を算出しその割合により、町丁目ごとの特徴を把握

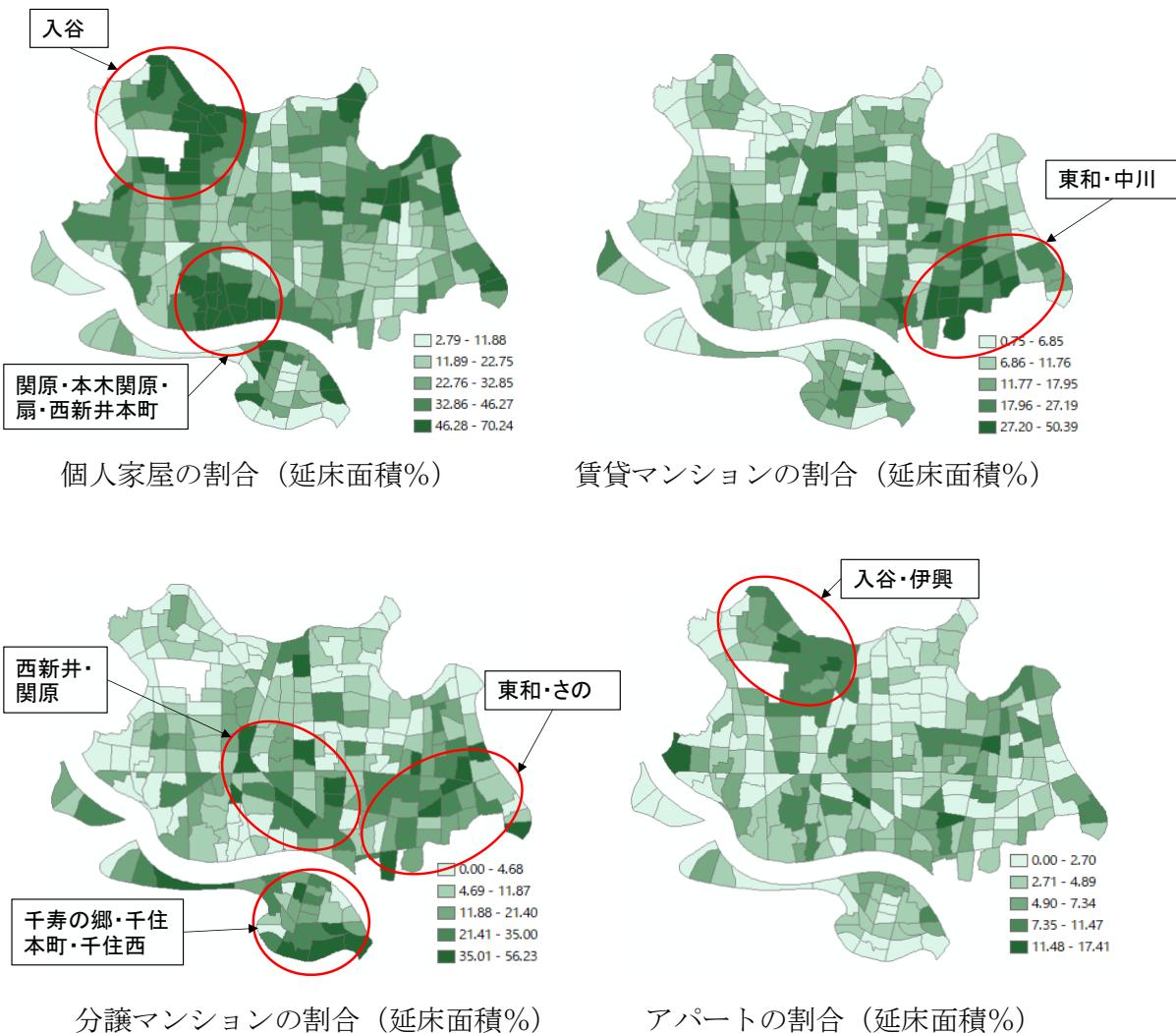
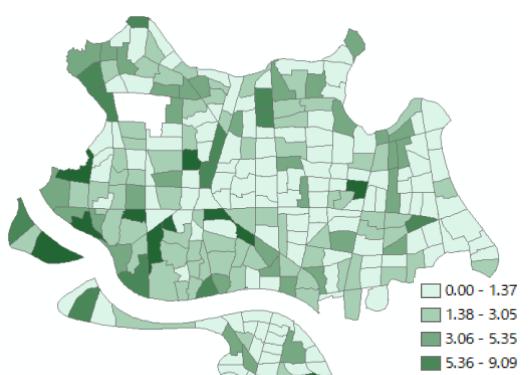
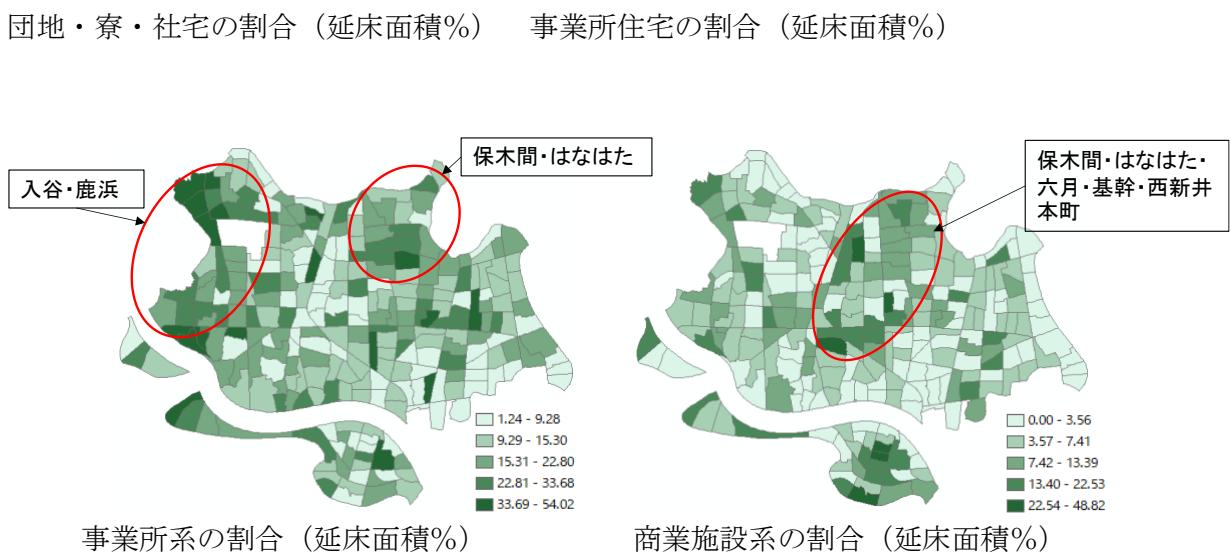
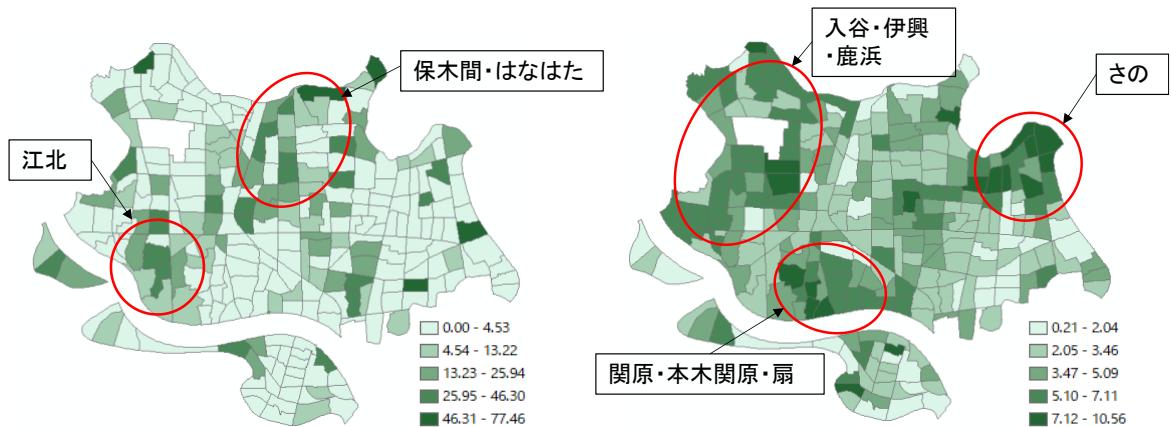


図 5.4 住居形態別の延床面積割合 その 1



その他の割合（延床面積%）

図 5.5 住居形態別の延床面積割合 その 2

5. 4 住居形態と設問項目の関係についての分析

これまでに得られた、足立区 2015 年調査データの町丁目単位の集計結果と町丁目単位の住居形態割合との相関について検討する。

①事例 1 住居形態と独居率の関係（有意確率 5 %で検定）

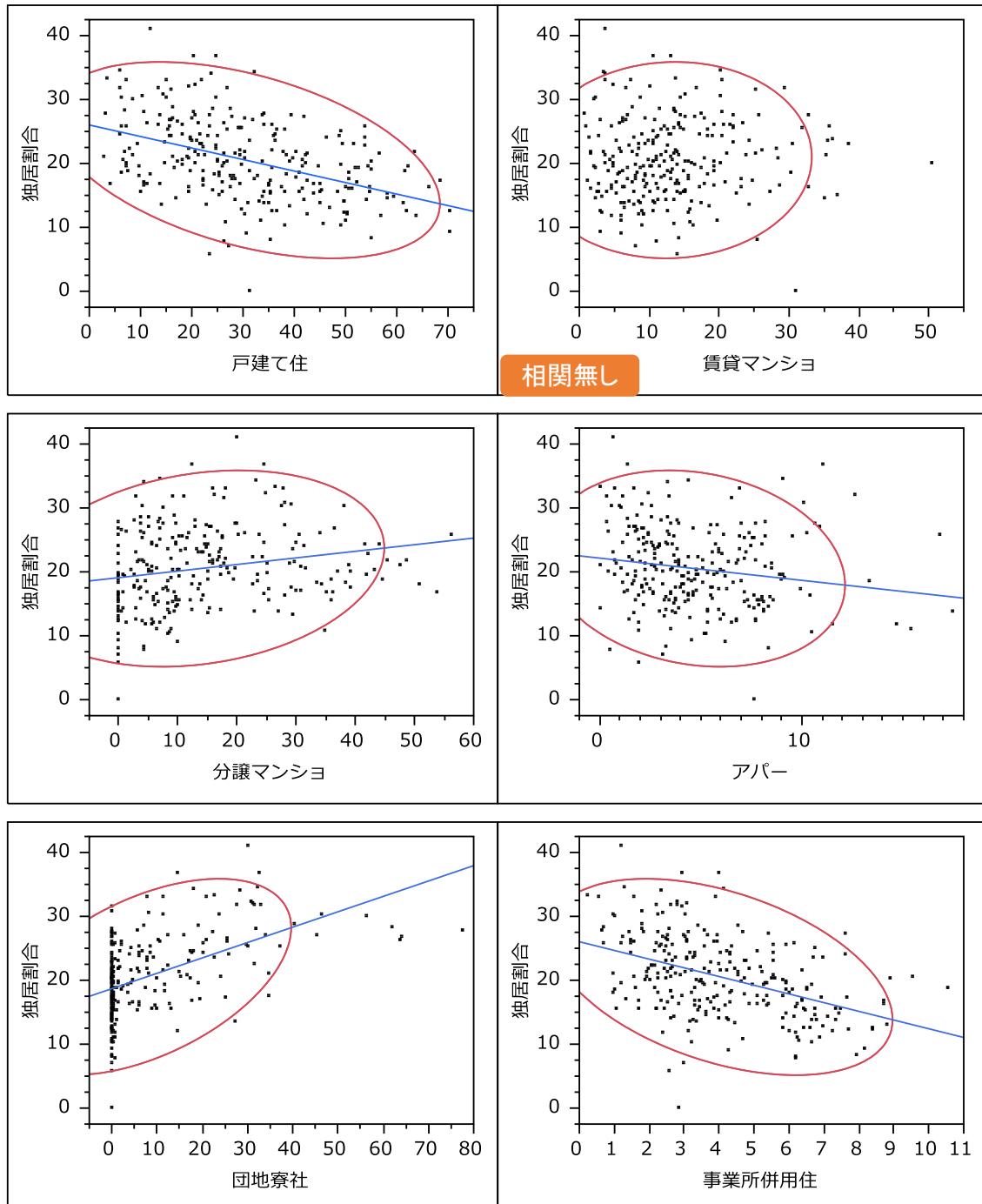


図 5.6 住居形態と独居率の関係 その 1

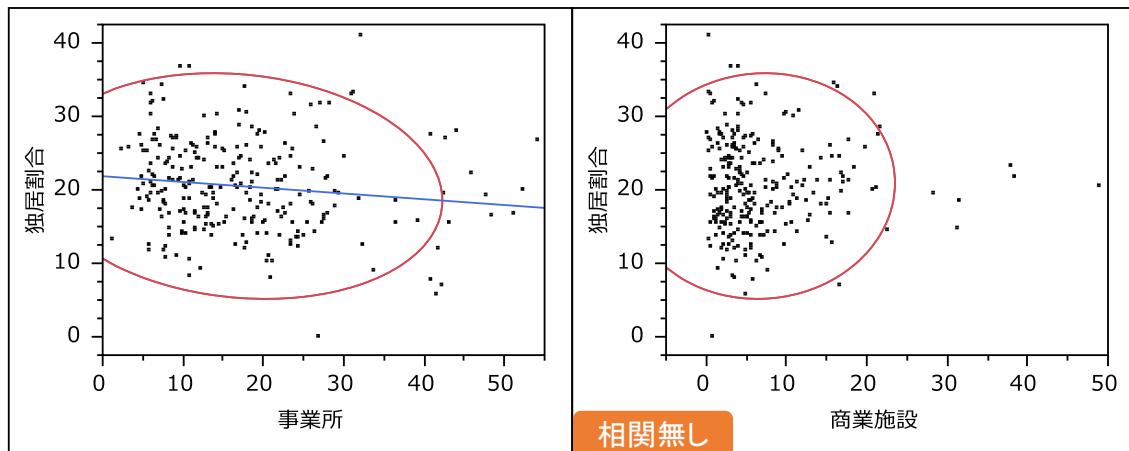


図 5.7 住居形態と独居率の関係 その 2

- ・戸建て住宅や事業所併用住宅の割合が高いと独居率が低下する傾向
- ・分譲マンションや団地・寮の割合が高いと独居率が上昇する傾向

②事例 2 住居形態と「近所の人に対する信頼感」の関係（有意確率 5 %で検定）

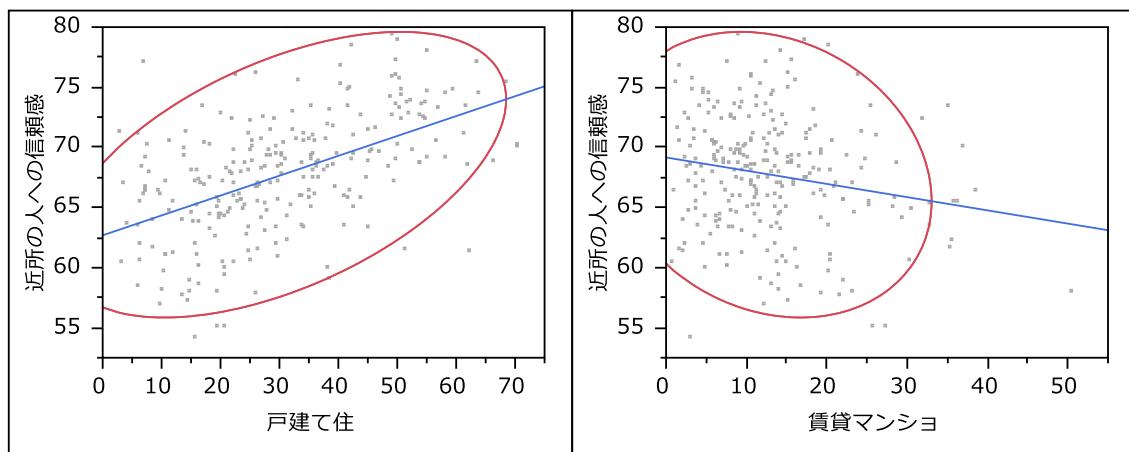


図 5.8 住居形態と「近所の人に対する信頼感」の関係 その 1

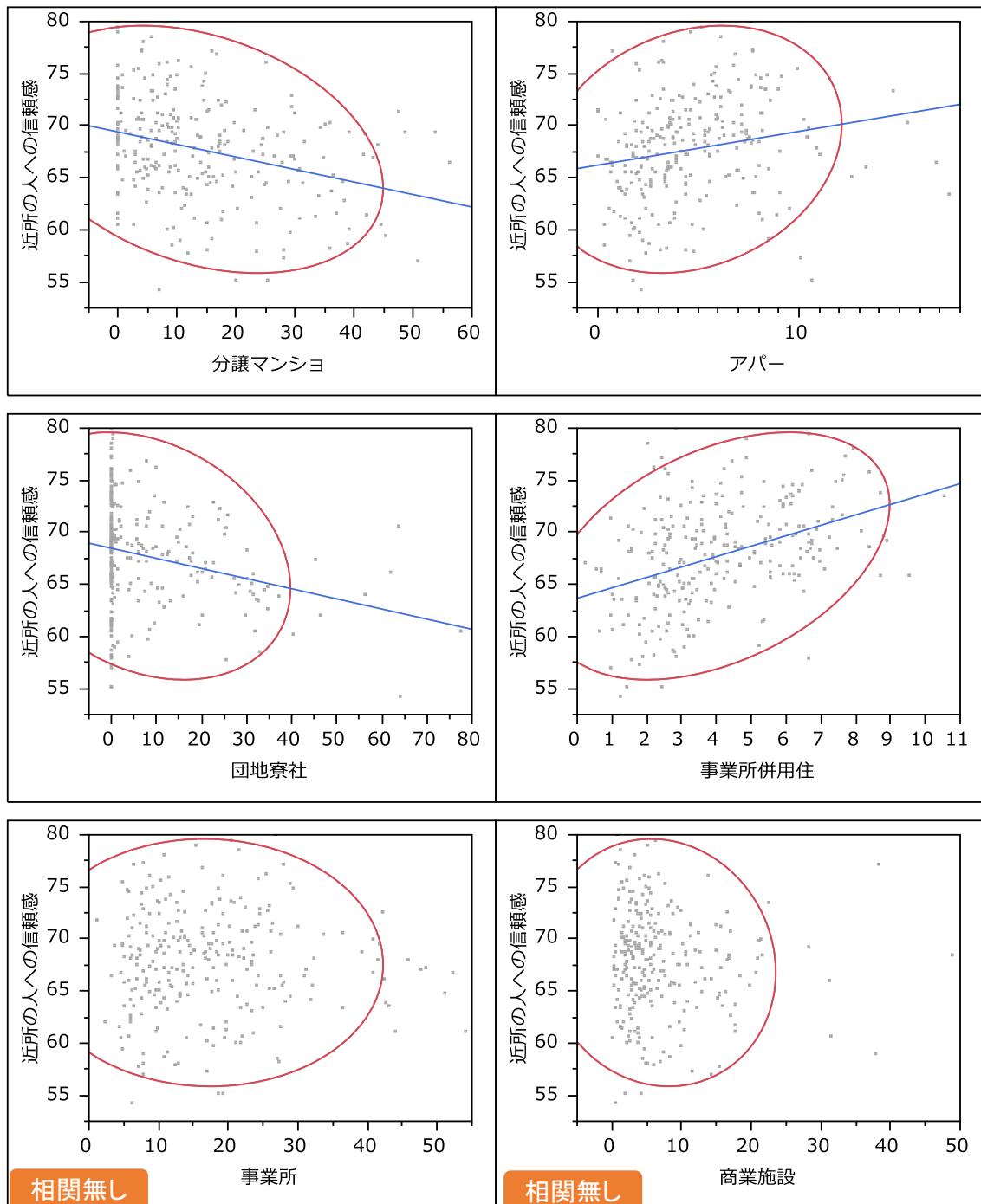


図 5.9 住居形態と「近所の人に対する信頼感」の関係 その 2

- ・戸建て住宅、事業所併用住宅、アパートの割合が高い地域では、近所の人への信頼感が上昇する傾向
- ・マンションや団地の割合が高い地域では、近所の人への信頼感が低下する傾向

5. 5 住居形態と設問項目の関係についてのまとめ

住居形態とその他の設問項目との関係をまとめると次表のとおりである。

優位確立（p 値）5 %で相関が認められる項目を示した。

表 5.1 住居形態と設問項目との関係

		戸建て住宅の割合	賃貸マンションの割合	分譲マンションの割合	アパートの割合	団地寮・社宅の割合	事業所併用住宅の割合	事業所系の割合	商業施設系の割合
問5	独居率	◐	-	◑	◐	◑	◐	◐	-
問8	健康状態の良好な割合	-	◑	-	-	◐	-	-	-
問10	かかりつけ医の存在割合	◑	-	◐	-	-	◑	-	-
問28	近所の人との付き合いが多い割合	◑	◐	◐	◑	-	◑	-	◐
問29	人と直接会う機会の多い割合	◑	◐	◐	◑	◐	◐	-	-
問30	手紙や電話で連絡を取る機会の多い割合	◑	-	◐	◐	◐	◑	-	◑
問31	地域活動に参加していない割合	-	◑	◑	-	-	-	◐	-
問31	町会・自治会への加入率	-	◐	◐	◐	◑	-	◑	-
問33	地域への愛着を感じる割合	◑	-	-	-	-	-	◐	-
問33	近所で密接な付き合いをする人の割合	◑	◐	◐	◑	◐	◑	-	◐
問33	近所の人に対して信頼感を持っている割合	◑	◐	◐	◑	◐	◑	-	-
問33	近隣地域の一員であると感じる割合	◑	◐	◐	◑	-	◑	-	◐
問33	自分と背景が似ている人との付き合いが多い割合	◑	◐	◐	-	◐	◑	-	-
問33	自分と背景が異なる人との付き合いが多い割合	◑	-	◐	-	◐	◑	◐	-
問33	現在住んでいる地域にこれからも住み続けたい割合	◑	-	-	-	◐	-	◐	-

◑ : 正の相関

◐ : 負の相関

- : 相関無し

- ①戸建て住宅、④アパート、⑥事業所併用住宅は似た傾向を示している。それらの割合が高いと独居率が低下する。また、「問 33.近所で密接な付き合いをする人がいるか」「問 34.近所の人に対して信頼感を持っている割合」「問 33.近隣地域の一員であると感じる割合」については、①④⑥とも、プラスの相関が見られる。総じて、地域との関りや帰属感は高くなると言える。一方で、細かいが興味深い差異も確認できる。①④⑥の中でも①戸建て住宅のみが「問 33.現在住んでいる地域にこれからも住み続けたい割合」にプラスの相関（有意）が見られる。①戸建て住宅と⑥事業所併用住宅は、「問 33.自分と背景が似ている人との付き合いが多い割合」「問 33.自分と背景が異なる人との付き合いが多い割合」とともに、プラスの相関が見られるが、④アパートでは相関が見られない。
- ②賃貸マンションと③分譲マンション、⑤団地・寮・社宅は似た傾向を示している。③分譲マンションと⑤団地・寮・社宅が高いと独居率が上昇するが、②賃貸マンションでは有意な関係が見られなかった。また、それらの割合が高いと地域との関りは減少する傾向が見られる。②③⑤とも、「問 29.人と直接会う機会の多い割合」「問 33.近所で密接な付き合いをする人の割合」「問 33.近所の人に対して信頼感を持っている割合」「問 33.自分と背景が似ている人との付き合いが多い割合」「は、マイナ

スの相関が見られた。それ以外の項目ではいくつかの差異が見られた。③賃貸マンションでは「問 30.手紙や電話で連絡を取る機会の多い割合」に相関が見られない一方で、③分譲マンションと⑤団地寮社宅ではマイナスの相関が見られた。②分譲マンションでは、「問 33.自分と背景が異なる人との付き合いが多い割合」にマイナスの相関が見られたが、②や⑤では見られなかった。⑤団地寮社宅では、「問 33.現在住んでいる地域にこれからも住み続けたい割合」にマイナスの相関が見られた。

- ③マンションや⑤団地・寮・社宅が多い地域では、独居高齢者の割合が高く、地域との関係も希薄になりがちであると言える。
- ⑤団地・寮・社宅と地域との関係について、上記結果に基づき考察したい。⑤団地・寮・社宅では「問 31.町会・自治会の加入率」にプラスの相関が見られる。しかしながら、前述の通り、「問 29.人と直接会う機会の多い割合」「問 33.近所で密接な付き合いをする人の割合」「問 33.近所の人に対して信頼感を持っている割合」「問 33.自分と背景が似ている人との付き合いが多い割合」にマイナスの相関が見られる。⑤の住居としての特性を考えれば、世帯収入など近い人が居住していることが想定されるが、「自分と背景が似ている人との付き合い」がマイナスの相関が見られることは興味深い。ここから、町会・自治会への加入率との間には正の相関が見られたとしても、会費を支払っているという程度の形式的な加入であることも考えられ、自主的に地域と交流する意識が薄い可能性があるのではないかとも考察できる。
- ①戸建て住宅や④アパート、⑥事業所併用住宅の多い地域では、家族と居住する高齢者が多く、近所の人との付き合いも多い傾向を示した。①④⑥では、「問 28.近所の人との付き合いが多い割合」「問 29.人と直接会う機会の多い割合」「問 33.近所で密接な付き合いをする人の割合」「問 33.近所の人に対して信頼感を持っている割合」「問近隣地域の一員であると感じる割合」にプラスの相関が見られた。さらに、①戸建て住宅と⑥事業所併用住宅では、「問 33.自分と背景が似ている人との付き合いが多い人の割合」「問 33.自分と背景が異なる人との付き合いが多い割合」にプラスの相関が見られたが、④アパートでは相関が見られなかった。
- 「問 33.現在住んでいる地域にこれからも住み続けたい割合」については①戸建て住宅でのみプラスの相関が見られた。
- ⑦事業所系や⑧商業施設系が多い地域では、居住者人口も減少することも影響していることが考えられるが、プラス・マイナスの相関が見られる項目が減っている。地域との関りについても明確な傾向が考えにくい。

5. 6 要支援・要介護認定と住居形態等の関係についての分析

足立区 2015 年調査での対象者 132,005 名に対し、2017 年および 2020 年時点では要支援または要介護と認定された人の割合を、町丁目単位で算出した。

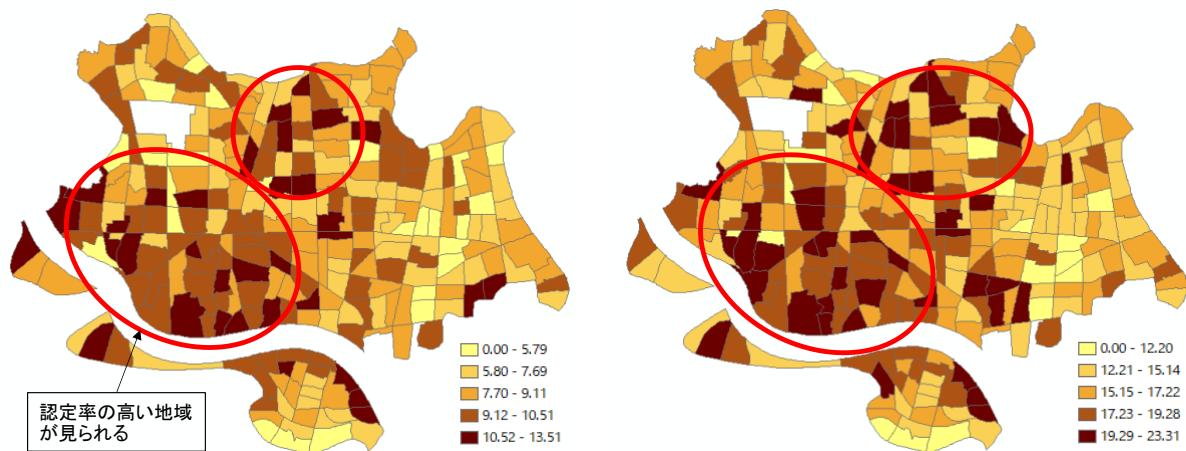


図 5.10 要支援または要介護と認定された人の割合 (%) 左 : 2017 年 右 : 2020 年

次に前述の町丁目単位の建物割合と、上記の各年次での要支援および要介護認定の割合を 2 変数としてその関係を分析した。なお 2020 年時点の認定割合には、2017 年時点で認定されていたが、その後死亡した方を含んでいる（2015 年以降の 5 年間で認定された人すべての割合を意味する）。

①2017 年時点での要支援および要介護認定率と住居形態の関係（有意確率 5 %で検定）

<分析の流れ>

- ・262 の町丁目単位で、2017 年時点で要支援および要介護と認定された人を集計し人口割合を算出する。
- ・「5.3 住居形態の把握」で算出した、町丁目単位での建物区分別の延べ床面積割合を利用。
- ・上記 2 変数を次のように散布図にプロットし、両者の関係を相関係数の有意確率により確認する（p 値 5 %で検定）。

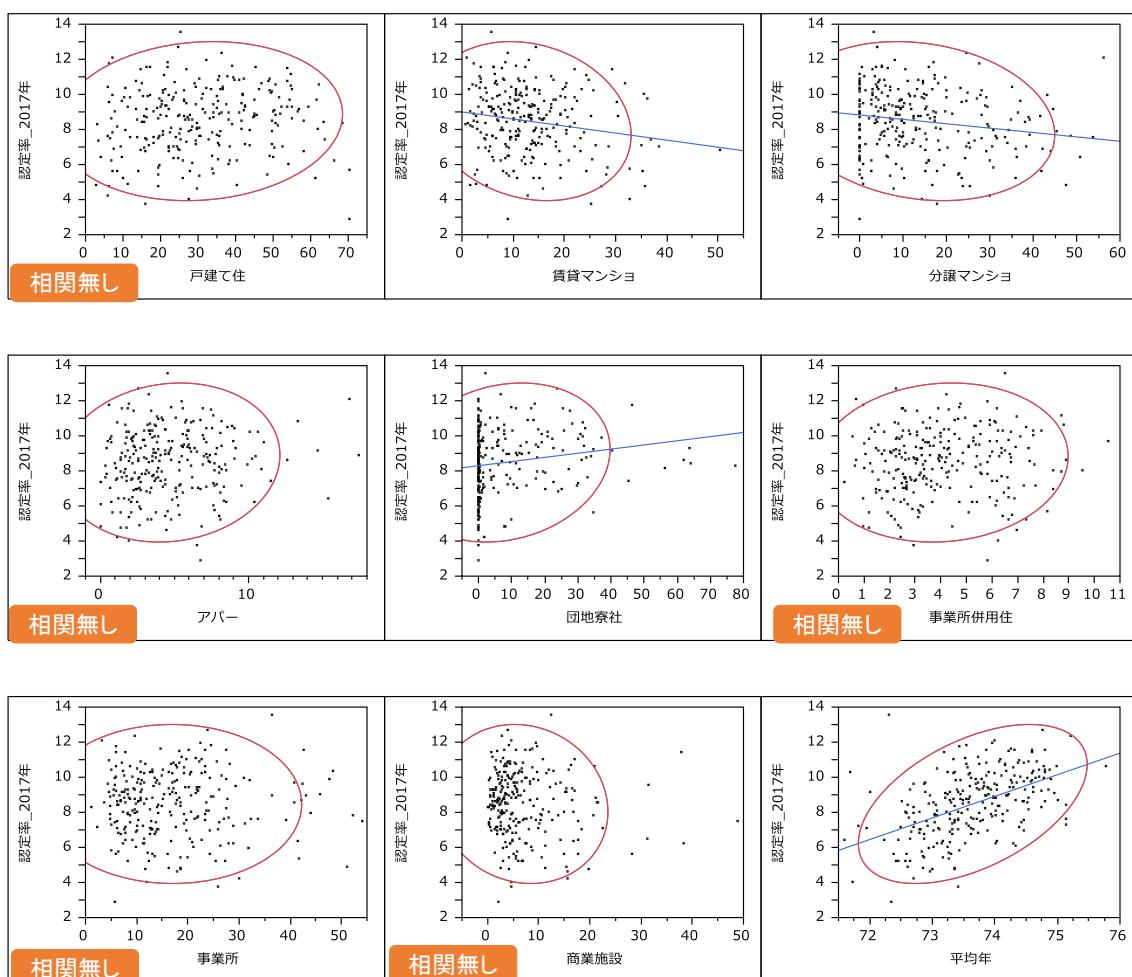


図 5.11 要支援および要介護認定率と住居形態の関係（2017 年）

②2020 年時点での要支援および要介護認定率と住居形態の関係（有意確率 5 %で検定）

分析の流れは前述の①2017 年時点と同様

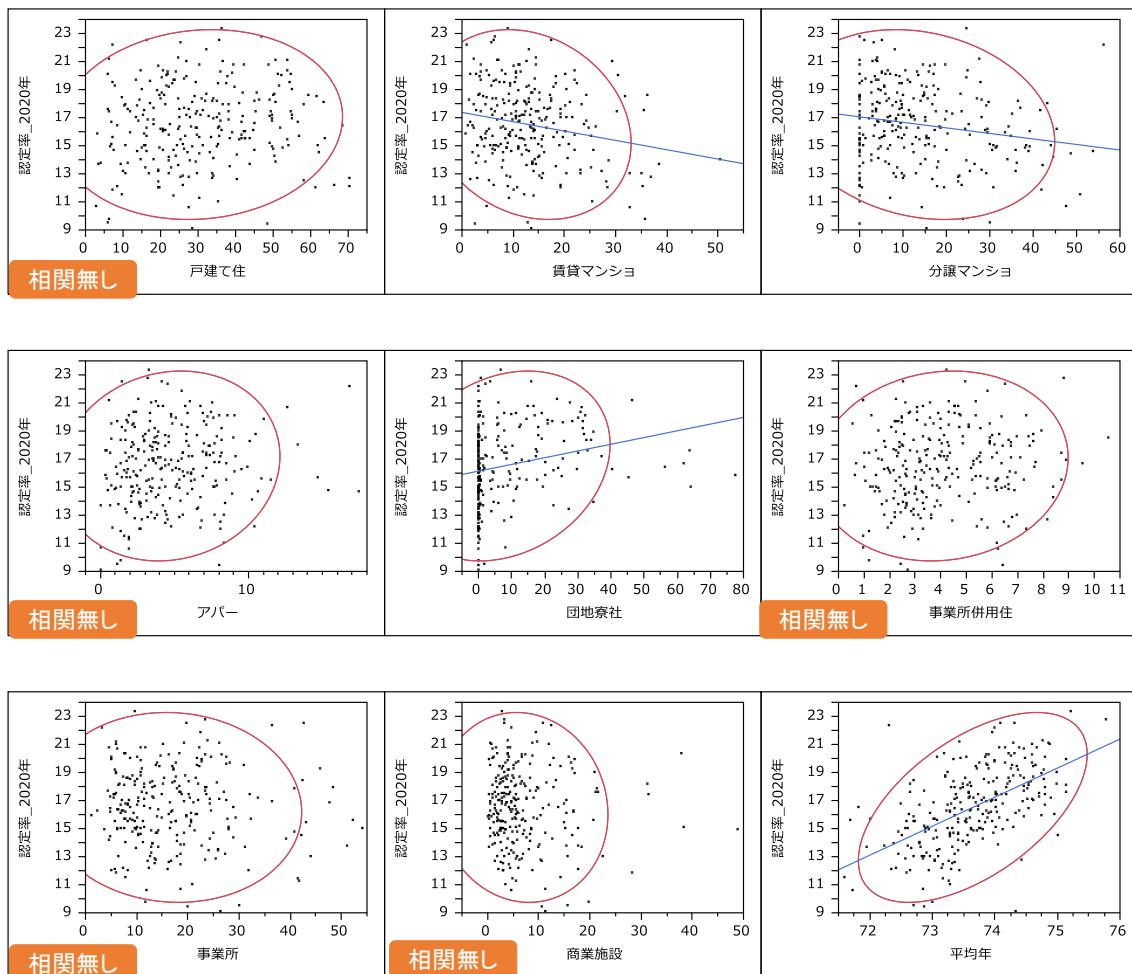


図 5.12 要支援および要介護認定率と住居形態の関係（2020 年）

- 2017 年、2020 年とも同様の傾向を示している
- 有意確率 5%で見ると、マンションおよび団地寮社宅と、認定率との間には関係性が見られる
- マンションの割合が高いと認定率が低く、団地寮社宅の割合が高いと認定率が高い傾向にある
- 町丁目ごとの平均年齢と認定率の間には強い相関が見られる

5. 7 地域包括担当地域の特徴および設問項目との関係

地域包括支援センターによる担当地域は、次図のように25に区分されており、各地域包括担当地域の住居形態（建物種別の延べ床面積の割合）を算出した上で、次の5クラスに分類した。



図 5.13 地域包括支援センター担当地域



図 5.14 住居形態による分類

さらにその特徴は以下のとおりである。

表 5.2 住居形態による地域包括担当地域の分類とその特徴

住居形態による分類	地域包括名称	戸建て住宅	賃貸マンション	分譲マンション	アパート	団地寮社宅	事業所併用住宅	事業所系	商業施設系	その他	特徴
1	12東和	17.37	26.73	22.08	3.63	5.51	2.32	13.38	7.62	1.34	賃貸マンションの割合が高い
1	19西新井本町	19.00	21.55	19.91	3.56	3.76	2.52	11.20	16.45	2.05	
2	02千寿の郷	20.41	8.98	30.77	3.14	2.66	2.11	15.85	9.59	6.49	
2	04千住本町	24.63	11.36	22.93	3.47	2.36	3.36	11.74	19.68	0.47	
2	08開原	27.52	9.74	31.35	5.96	1.50	3.55	12.47	4.03	3.88	分譲マンションと戸建て住宅の割合が高い
2	09あだら	30.20	17.77	23.54	5.20	2.97	4.18	10.71	3.62	1.82	
2	14さの	34.02	10.22	17.81	5.53	5.26	5.62	15.27	4.82	1.43	
3	06扇	39.87	10.55	9.26	5.10	6.64	5.02	15.08	4.48	4.19	
3	07本木間原	47.52	13.08	3.29	5.23	1.06	6.16	16.01	4.49	3.16	
3	15一ツ家	36.19	14.23	6.70	5.17	5.14	5.11	17.21	8.22	2.04	戸建て住宅の割合が高く、賃貸マンションも多い
3	22鹿浜	31.67	11.88	7.69	4.11	7.04	5.60	22.04	7.18	2.79	
3	23入谷	34.96	8.19	5.36	5.23	6.21	4.78	24.88	7.10	3.28	
3	24伊興	43.23	10.84	7.19	8.33	4.40	4.50	15.56	3.98	1.97	
4	01日の出	17.36	15.09	15.39	3.48	7.85	1.92	24.38	12.10	2.43	
4	03千住西	23.13	14.30	23.13	2.61	5.12	2.89	16.08	10.85	1.90	
4	05新田	15.99	9.37	23.86	2.44	11.70	2.74	16.91	8.90	8.08	
4	10中央本町	22.11	10.04	27.38	2.96	13.70	3.51	14.84	4.32	1.14	分譲マンションと戸建て住宅の割合が同程度で団地・寮・社宅の割合が高い
4	13中川	27.54	13.50	21.70	3.64	15.03	2.89	11.54	2.84	1.33	
4	17保木間	21.12	11.58	18.90	1.90	12.59	3.09	20.87	7.23	2.73	
4	20西新井	24.34	12.88	16.88	4.78	11.91	3.47	14.76	7.54	3.45	
4	25基幹	23.18	13.65	20.99	5.02	5.74	3.22	16.56	10.34	1.32	
5	11西綾瀬	28.29	19.41	11.75	7.82	16.79	2.88	9.77	1.89	1.42	
5	16なはた	29.79	8.89	5.10	2.41	21.51	3.41	18.89	8.37	1.63	戸建て住宅と賃貸マンションおよび団地・寮・社宅の割合が高い
5	18六月	20.30	18.32	9.22	3.68	19.61	2.77	11.72	12.87	1.51	
5	21江北	25.98	7.58	6.33	3.78	19.81	3.56	23.49	5.15	4.33	

各地域包括で最も割合が高い
各地域包括で、2番目および3番目に割合が高い

5分類された各地域は、戸建て住宅やマンションなど住居形態の組み合わせにより、次のような特徴がある。

- ・**住居形態1**の地域では、マンションが20%程度以上と多く、特に賃貸マンションの割合が高い。
- ・**住居形態2**の地域は、戸建て住宅と分譲マンションの割合が共に20~30%以上と高い地域である。
- ・**住居形態3**の地域では、戸建て住宅の割合が30~50%弱と非常に高く、賃貸マンションの割合も10%程度以上と高い地域である。
- ・**住居形態4**の地域は、住居形態2と同様に戸建て住宅および分譲マンションが多いが、団地・寮・社宅も5~15%程度ある。
- ・**住居形態5**の地域は、戸建て住宅の割合が20~30%程度と高く、団地・寮・社宅も20%程度と高い。

次に地域包括担当地域と設問項目の関係を把握するため、地域包括ごとに各設問項目を集計し、住居形態による5分類との関係を見た。同時に前述の総合リスクの値との関係も把握した。

表 5.3 地域包括担当地域と設問項目との関係

住居形態による分類	地域包括名稱	独居率	健 康状態の良 好な割 合	かかりつけ医の存在割合	近所の人との付き合いが多い割合	手紙や電話で連絡を取る機会の多い割合	地域活動に参加していない割合	町会・自治会への加入率	近所への愛着を感じる割合	近隣地域の人に対する人の付き合いが多い割合	自分と背景が似ている人の付き合いが多い割合	現在住んでいる地域に住み続けた割合	自分と背景が似ている人が多い割合	総合リスク			
1	12東和	21.89	81.30	90.77	57.93	68.84	57.79	49.64	20.64	88.29	46.23	64.30	69.53	51.71	30.61	87.91	15.85
1	19西新井本町	24.97	77.66	91.37	63.69	70.91	57.18	48.51	26.19	88.90	50.15	65.44	74.06	54.74	32.36	89.18	17.07
2	02千寿の郷	21.88	83.54	90.37	62.42	72.53	59.69	47.74	21.03	88.72	51.30	70.64	75.35	55.53	31.31	89.23	18.76
2	04千住本町	25.44	80.61	91.34	65.66	72.26	57.49	49.93	20.65	90.99	55.26	71.29	78.07	56.75	32.99	89.75	20.92
2	08閑原	21.55	80.26	90.84	63.05	71.71	55.98	47.58	19.14	88.33	50.57	68.22	75.07	54.79	32.08	88.66	19.98
2	09あだち	23.44	80.71	92.23	62.30	69.54	56.43	51.66	18.67	87.96	49.38	67.03	72.48	52.67	29.42	86.94	20.22
2	14さの	18.90	80.39	91.25	66.05	70.96	56.94	47.70	26.91	85.55	51.66	66.47	73.93	55.34	33.11	85.49	17.65
3	06脇	19.66	79.49	92.82	68.90	74.03	58.46	48.35	24.48	87.90	56.46	70.47	77.80	56.98	32.31	87.72	18.98
3	07本木閑原	19.44	79.94	92.90	69.07	74.08	56.94	52.69	16.88	89.42	57.63	72.51	76.52	60.51	34.62	88.98	20.67
3	15一ツ家	19.11	80.26	92.39	70.32	75.02	58.27	45.84	29.13	88.69	56.66	70.78	78.54	56.34	34.69	87.51	18.23
3	22鹿浜	19.10	78.47	92.42	67.42	73.26	59.03	48.47	26.19	86.26	54.91	68.53	74.82	54.94	34.71	86.05	16.28
3	23入谷	15.12	80.92	91.43	70.57	74.54	57.65	49.81	20.38	87.36	54.87	69.43	76.72	58.09	34.17	87.72	16.31
3	24伊興	18.17	80.70	93.08	65.93	73.19	58.86	45.45	23.78	88.57	51.80	68.68	77.13	55.65	31.24	88.20	15.80
4	01日の出	28.17	81.70	90.80	65.19	69.90	56.95	49.30	20.65	90.09	50.90	67.15	74.02	53.15	29.70	90.58	18.97
4	03千住西	23.05	81.01	91.53	64.18	71.48	58.43	50.00	18.50	90.32	51.44	69.78	75.45	54.50	31.78	90.18	20.06
4	05新田	22.10	80.30	89.80	63.70	70.95	56.64	50.76	20.21	85.75	50.14	65.95	74.73	54.57	30.22	85.52	20.65
4	10中央本町	19.73	82.55	92.07	65.51	73.20	60.65	41.60	32.32	88.08	52.55	69.30	77.98	56.00	33.28	87.99	18.48
4	13中川	23.51	81.04	90.36	61.98	68.68	55.51	48.10	24.56	86.27	48.50	64.75	70.92	52.37	31.77	85.43	17.48
4	17保木間	25.70	77.62	82.76	65.44	69.48	55.12	44.64	32.13	86.01	48.85	64.74	72.99	54.41	32.01	85.44	13.43
4	20西新井	21.51	80.56	92.53	62.14	69.94	56.41	48.68	23.28	88.99	48.51	65.28	73.83	54.51	30.83	88.06	14.99
4	25基幹	21.38	80.69	91.25	62.43	69.62	56.03	49.76	18.69	88.53	50.59	66.12	75.13	54.10	32.56	88.03	17.14
5	11西綾瀬	25.80	78.10	93.02	65.14	71.50	55.88	44.25	30.96	88.83	52.72	66.42	75.58	55.70	32.90	88.32	19.25
5	16はなはた	24.88	79.11	92.12	68.09	70.65	56.64	46.30	28.72	88.12	51.02	67.13	75.73	54.38	33.10	87.06	12.79
5	18六月	26.91	78.45	91.94	62.74	67.96	56.70	48.38	23.77	87.20	46.61	64.12	71.47	51.40	29.58	86.26	14.40
5	21江北	25.55	77.22	92.55	67.92	70.67	55.76	50.03	26.48	86.69	52.11	64.84	75.65	55.91	33.57	87.13	14.95

各 設問項目で割合が高いもの

各 設問項目で割合が高いもの

各 設問項目で割合が高いもの

各 設問項目で割合が高いもの

各 設問項目で割合が高いもの

地域包括単位で見ると数値の差は小さいが、次のような傾向が読み取れた。

- ・賃貸マンションの割合が高い①および団地寮社宅の割合が高い⑤のグループでは、地域との関りが希薄な傾向が見られる。
- ・戸建て住宅の割合が高い③では、地域との関りが多い傾向が見られる。
- ・戸建て住宅と分譲マンションが混在する②、④では、地域包括単位での相違が見られるが、地域との関りは希薄な場合が多い。

5. 8 足立区 2015 年調査データを用いた住居形態との関係分析のまとめ

- ①戸建て住宅、④アパート、⑥事業所併用住宅の多い地域では独居率が低く、③分譲マンション、⑤団地・寮・社宅が多い地域では独居率が高い。
- ①戸建て住宅、④アパート、⑥事業所併用住宅の多い地域では高齢者と地域との関りが多く、②賃貸マンション、③分譲マンション、⑤団地・寮・社宅が多い地域では地域との関りが少ない傾向があった。
- ②賃貸マンションおよび③分譲マンションの多い地域では、要支援および要介護認定率が低下し、⑤団地・寮・社宅が多いと、認定率が上昇する傾向が見られた。②③⑤は、その多くが鉄筋コンクリート等の共同住宅であることを考えれば、認定率の傾向は同様となることも考えられるが、差異が見られたこととなる。
→公営団地等では社会福祉の手が届きやすく、マンションには届きにくい構造があるのではないか
- 地域包括単位を**住居形態**から5 グループにまとめると、地域社会との関係の多さや独居率の相違などでそれぞれに特徴が見られた。
- 5 グループには、それぞれに総合リスクの高い地域包括単位が含まれるため、地域社会との関係性や独居率を考慮した対応が望まれる。
- 災害発生時に必要な共助の体制づくりにおいては、高齢独居率が高く地域との関りも薄い傾向のある分譲マンションでは対応検討が必要と思われる。